はじめに

勉強方法

文章問題

①読む

――まず文章を読みましょう。

↓

②線を引く

――大切だと思うところにチェックをしましょう。

↓

③問題を解く

――文章の後についてある問題を解きましょう。

↓

④文章の解説動画を見る

――わからないところがあれば、ノートをとっておきましょう。

※③と④は入れかわってもかまいません。

↓

⑤問題の解説動画を見る

――丸つけをしながら、まちがったところを理解しましょう。

（授業動画は《文章（本文）の解説→問題の解説》の順で展開されているので、①②の段階で難しく思うのであれば、まず④の解説を見てから問題を解いてください。その後、問題を解いてみましょう。）

↓

⑥復習

――文章を音読し、意味のわからないところがないか確認。

――また、まちがった問題、正解していたけれどよくわかっていなかった問題をもどって確認しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

知識問題

①知識の解説動画を見る

――問題を解く前に必ずチャプターーの解説を見てください。

――まちがった考え方で解いてしまうと、まちがった考え方のクセがついてしまうので、その前に動画で正しい考え方を理解してから解きましょう。

←

②問題を解く

――考え方を身につけた後に、問題を解いてみましょう。

←

③問題の解説動画を見る

――丸つけをしながら、まちがった問題の考え方を理解していきましょう。

←

④復習

――まちがった問題をしっかり見直し、やり直しましょう。自分の考え方がまちがっていないか確認したり、覚えないと解けないところは暗記したりしてください。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　キャプテンがんばる①（物語文）……p.5
第二講　キャプテンがんばる②（物語文）……p.10
第三講　いのちをはぐくむ農と食①（説明文）……p.15
第四講　いのちをはぐくむ農と食②（説明文）……p.19
第五講　ぼくらのサイテーの夏（物語文）……p.25
第六講　詩……p.30
第七講　漢字（音読み、訓読み、漢字辞典）……p.38
第八講　ことわざ、故事成語……p.46
第九講　広告と説明書の読み比べ、わたしの考えたこと……p.52
第十講　セロ弾きのゴーシュ……p.60
第十一講　色さいとくらし……p.66
第十二講　ごんぎつね①……p.71
第十三講　ごんぎつね②……p.76
第十四講　ごんぎつね③、手紙の書き方……p.82
第十五講　つなぎことば……p.91
第十六講　くらしの中の和と洋……p.97

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

小４　国語　基礎　目次

第十七講　同音異義（いぎ）語、熟（じゅく）語の組み立て …… p.103

第十八講　世界一美しいぼくの村① …… p.112

第十九講　世界一美しいぼくの村② …… p.118

第二十講　短歌、俳句（はいく） …… p.126

第二十一講　ゆめのロボットを作る …… p.137

第二十二講　木竜（もくりゅう）うるし① …… p.143

第二十三講　木竜（もくりゅう）うるし② …… p.149

第二十四講　文の組み立て（主語、述（じゅつ）語、修飾（しゅうしょく）語） …… p.158

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講・キャプテンがんばる①（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

どらねこ横町の少年野球チーム、ブラック＝キャットは、どうしようもないほど弱かった。出場するたびに負けていた。

　どらねこ、ぼろねこ　つぶれねこ
　万年びりけつ　ねこのけつ

と、さんざんやじられても、やりかえす気力さえなかった。

負けることに、すっかりなれちゃって、試合も練習も、だらけきっていた。なによりも、チームとしてのまとまりがなかった。負けるたびに、みんな他人のせいにして、一人一人が、ばらばらだった。

夏休みになったばかりのころ——。だらけたチームにうんざりして、名キャッチャーのキャプテン、岸さんが、やめた。つづいて、六年生が二人、やめた。六年生でのこったのは、サードのガンちゃんだけ。

ガンちゃんに推されて、ぼく（長谷川勇）は、しようがないからキャプテンになった。

だけど、信頼していた五年生のエース、吉野くんまでが、銀杏塾の夏期合宿のために、やめてしまった。

ぼくも、うんざりした。ブラック＝キャットなんか解散しちゃえ！　と思った。

〈後藤竜二「キャプテンがんばる」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ——線「ブラック＝キャット」は、どんなチームですか。ふさわしいものを次の中から一つ選(えら)び、記号で答えなさい。

ア とくに目立ったところのない、よくあるチーム。

イ いっしょうけんめいやるが、負けてしまうチーム。

ウ 弱くて、練習もちゃんとやらないチーム。

エ 強くも弱くもない、ふつうのチーム。

□

(2) 夏休みになってから、何名の選手(せんしゅ)がチームをやめましたか。□に漢字一字で答えなさい。

□名

(3) 六年生は何名になりましたか。□に漢字一字で答えなさい。

□名

(4) キャプテンになった「ぼく」はどう思いましたか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もう負けたくないと思った。

イ いっしょうけんめいやろうと思った。

ウ キャプテンをやりたくないと思った。

エ チームが解散すればいいと思った。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔キャプテンの「ぼく」は、残った選手のがんばっている様子に心を動かされ、「ゴロさん」というコーチをむかえたり、選手を集めたりした。〕

そのうち、吉野くんが銀杏塾の合宿からもどってきて、ブラック＝キャットに復帰した。ちょっとごたごたするんじゃないかとしんぱいだったけど、みんなは、すんなり吉野くんをむかえいれてくれた。

そして、夏の大会、第一回戦。対戦相手はスネイクス。優勝候補といわれていた強いチームだったけど、ぼくらは四対三で逆転勝ちした。

だれだって、予想もしていなかったにちがいない。

ぼくら自身だって、

（あれ、勝っちゃった……！）

と、ゆめみたいな気分だった。

ぼくらが優勝したみたいによろこんでいたら、

「まぐれで勝ったくせに、いい気になるな。」

なんて、スネイクスの連中、くやしまぎれに、すてぜりふをのこして消えていった。

そのすてぜりふをきいて、

（あ、ほんとに勝ったんだな。）

と、ぼくは思った。——まぐれなんかじゃない。きつい練習を一日も休まなかったみんな。そのみんなが、がっちりチームワークをかためて勝ったんだ。

ほこらしく、そう思った。

〈後藤竜二「キャプテンがんばる」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)「吉野くん」がもどってきたとき、みんなの様子はどうでしたか。文中から二十五字以内でぬき出しなさい。

(2)「スネイクス」に勝ったときの「ぼくら」の様子としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　苦しかった試合(しあい)を思い出してよろこんだ。
イ　とりあえず第一回戦に勝ててほっとした。
ウ　勝ったことがゆめのようで信(しん)じられなかった。
エ　絶対(ぜったい)に優勝できると自信がわいた。

(3)「スネイクス」に勝ったと「ぼく」がはっきり思ったのはいつですか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

スネイクスの選手の□をきいたとき。

(4)「ぼく」はなぜスネイクスに勝てたと思っていますか。本文の言葉を使って書きなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講・確認テスト

次の漢字の部首を選びなさい。

１　秋

ア　てへん　イ　のぎへん

ウ　ごんべん　エ　きへん

２　庭

ア　まだれ　イ　がんだれ

ウ　れんが　エ　もんがまえ

３　間

ア　くにがまえ　イ　りっとう

ウ　しんにょう　エ　もんがまえ

４　点

ア　こころ　イ　のぎへん

ウ　ひへん　エ　れんが

５　空

ア　たけかんむり　イ　うかんむり

ウ　あなかんむり　エ　くさかんむり

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講・キャプテンがんばる②（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼくのへやは暑い。＊麦塾（むぎじゅく）どころじゃない。

その暑いへやのたたみに、ごろんとねころんだから、かべにはった〈①キャプテン心得帳（こころえちょう）〉が目にはいった。

一、キャプテンは、すぐにやめちゃったりしないで、がんばりぬくこと。

一、キャプテンは、みんなよりもきびしく練習して、うまくなること。

そんなことが、いくつも書いてある。夏休みになったばかりのころ、ブラック＝キャットがつぶれかかって、意地でキャプテンをひきうけたとき、

（キャプテンになるぞ！）

と、自分にいいきかせて書きつらねたことばだった。——だけど、②いまは、あんまり見たくなかった。

（二学期まで、あと一週間か……。）

③ため息がでた。——おんぼろチームだったブラック＝キャットを、なんとか立て直すことはできた。強敵（きょうてき）スネイクスも、みごとにうちやぶった。だけど、勉強のほうは、さっぱりだった。学習計画表の半分くらいしかやってない。宿題ものこってる——。

〈後藤（ごとう）　竜二（りゅうじ）「キャプテンがんばる」より〉

＊麦塾＝「ブラック＝キャット」のコーチであるゴロさんがひらいている塾。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ——線①「キャプテン心得帳」は、どこにはってあるのですか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

□のかべ。

(2) ——線①「キャプテン心得帳」には「ぼく」のどんな気持ちが書かれていますか。ふさわしいものを次の中から一つ選(えら)び、記号で答えなさい。

ア キャプテンになったことを不安(ふあん)に思う気持ち。
イ キャプテンをがんばろうといいきかせる気持ち。
ウ キャプテンになってうれしいという気持ち。
エ キャプテンを自信(じしん)をもってやっていけるという気持ち。

□

(3) ——線②「いま」とありますが、これはいつのことですか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

あと□□□たつと□□□になるというとき。

(4) ——線③「ため息がでた」とありますが、なぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 勉強や宿題をさっぱりやっていないから。
イ スネイクスに勝った喜(よろこ)びを思い出したから。
ウ チームを立て直すのが大変(たいへん)だったから。
エ 遊びにいけないまま夏休みが終わってしまうから。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「対戦相手は、レッド＝リバーズ。」

と、①ゴロさんが発表した。三十分ほど前にわかったばかりだそうだ。

「ええっ！」

と、ぼくらは、ざわめいた。

レッド＝リバーズは、いつでもベスト4にはいっている強いチームだ。このあいだ、練習試合で二軍を、こてんぱんにやっつけたことはあったけど、もちろん一軍は強い。

「ついてないなあ。」

「優勝候補とばかりぶつかるんだもんなあ。」

と、ぼくらはぶつぶついって、②ため息をついた。

ゴロさんは、ぼくらのおしゃべりを、だまってきいていたけど、やがて、

「③なさけないねえ。」

と、じょうだんでもいうように、かるくいった。ぼくら、わらおうとしたんだけど、とたんに、

「初心は、どうしたんだ！」

ゴロさんが、きゅうにつくえをひっぱたいておこったから、びっくりして、わらいがこわばってしまった。

「弱いところとばかりやって優勝したいのか！　いつからそんなふうに考えるようになったんだ！　おまえら、そんなことのために、この夏休みのあいだじゅう、ブラック＝キャットのことで、ごたごたやってきたのか！」

〈後藤竜二「キャプテンがんばる」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ゴロさんが発表した」とありますが、何を発表したのですか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

次の試合の□□□□。

(2)　――線②「ため息をついた」とありますが、なぜ「ため息をついた」のですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　二軍に勝ったのに一軍とも試合をすることになったから。

イ　初めて強い相手と試合をしなければならないから。

ウ　またもや強い相手と試合をしなければならないから。

エ　ゴロさんにおこられてしまったから。

□

(3)　――線③「なさけないねえ」について、次の問いに答えなさい。

あ　「なさけないねえ」というゴロさんの言葉に対して、「ぼくら」はどう思いましたか。文中の言葉を使って答えなさい。

□

い　「なさけないねえ」と言ったときのゴロさんの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　対戦相手にぶつぶつ言う「ぼくら」にあきれている。

イ　次に何を言おうか、じっくり考えている。

ウ　「ぼくら」の考えを知りたいと思っている。

エ　まずじょうだんを言ってなごませようとしている。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講・確認テスト

次の漢字の部首を選びなさい。

1　遠
ア　しんにょう　イ　えんにょう
ウ　たけかんむり　エ　ふるとり

2　都
ア　こざとへん　イ　おおざと
ウ　おおがい　エ　さんずい

3　約
ア　いとへん　イ　のぎへん
ウ　ごんべん　エ　さんずい

4　改
ア　あくび　イ　りっとう
ウ　つき　エ　のぶん

5　栄
ア　うかんむり　イ　くさかんむり
ウ　き　エ　たけかんむり

第三講・いのちをはぐくむ農と食①（説明文）

一　こそあど言葉の役割

「こそあど言葉」は、説明文で同じ言葉を何度もくり返すのをさけるために使われる。

例　お米は田んぼで作る。春の終わりごろ、そこになえを植える。

二　こそあど言葉が指す内容のさがし方

こそあど言葉が指す内容をさがすときには、前の部分からさがすようにする。さがした言葉が、指す内容かどうかを確かめるには、さがした言葉をあてはめてみて、文の意味が正しく通るかどうかを確かめる。

例　お米は田んぼで作る。春の終わりごろ、田んぼになえを植える。

三　こそあど言葉の表

こ	そ	あ	ど
これ	それ	あれ	どれ
ここ	そこ	あそこ	どこ
こちら	そちら	あちら	どちら
こっち	そっち	あっち	どっち
こんな	そんな	あんな	どんな
こう	そう	ああ	どう
この	その	あの	どの

「これ」や「それ」などは、物やことがら、「ここ」や「そこ」などは、場所を指すので、説明文でこそあど言葉の指す内容をさがすときには気をつけること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いま、日本の子どもたちの味覚があいまいになっています。そこで私は、子どもたちにほんものの味を教えることがいまこそひじょうに重要だと主張しています。味覚教育をぜひ*食育の中に入れてほしいものだと考えているのです。

あるショッキングな味覚実験があります。かつお節でおいしい出汁をとります。①それと同じぐらいの味の濃さにして、*グルタミン酸ナトリウムを入れた液体をつくります。②この二種の液を、子どもたちに舐めさせて「③どちらがおいしいか」と聞いたそうです。どういう答えになったでしょうか。

多くの子どもたちが、ほんもののかつお節の味とグルタミン酸ナトリウムの味を区別できなかったそうです。④これにはたいへん驚きました。なぜかというと、多くの子どもたちの舌がグルタミン酸ナトリウムの味に画一化されているからです。

これはとても困ったことです。日本の子どもたちの舌が「この味だけでもう満足」ということになったら、これからは舌で考えることができない人間になってしまいます。舌でものを考えるのはひじょうに大切なのです。食べることは生きることの基本であって、その生きる基本の入り口のところがみんな同じになってしまったら、どうなるのでしょうか。個性を失って特徴ある人間はできなくなってしまうでしょうし、⑤味気のない、同じような感覚をもった人間しかできなくなってしまうかもしれません。

〈小泉　武夫「いのちをはぐくむ農と食」より〉

*食育＝健康に生きるための、食べることについての教育。

*グルタミン酸ナトリウム＝化学調味料の主成分。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「それ」は何を指していますか。次の□にあてはまる言葉を文中からぬき出しなさい。

［　　　　］でとった［　　　　　　］

(2) ――線②「この二種の液」と、――線③「どちら」は同じものを指しています。何を指していますか。ふさわしいものを次の中から二つ選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　ほんものの味の液体。
イ　グルタミン酸ナトリウムを入れた液体。
ウ　かつお節でとったおいしい出汁。
エ　味の濃い液体。

［　］［　］

(3) ――線④「これ」はどんなことを指していますか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

多くの子どもたちが、［　　　　］の味とグルタミン酸ナトリウムの味を区別できなかったこと。

(4) ――線⑤「味気のない、同じような感覚をもった人間」とありますが、どんな人間のことですか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

みんな同じで、個性のない［　　　］された人間。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講・確認テスト

次のうち、かなづかいの正しいものを選びなさい。

１　氷
ア　こうり　イ　こーり
ウ　こおり　エ　ひょうり

２　お姉さん
ア　おねいさん　イ　おねーさん
ウ　おあねさん　エ　おねえさん

３　地面
ア　じめん　イ　ちめん
ウ　ぢめん　エ　しめん

４　弟
ア　おとーと　イ　おとうと
ウ　おとおと　エ　おおおと

５　続く
ア　つづく　イ　つずく
ウ　ぞくく　エ　すずく

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講 ・いのちをはぐくむ農と食②（説明文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みんなが同じ味で画一化されてしまったら、*最大公約数的な人間しかできず、①このままでは、子どもたちの将来、ひいては日本の将来にとってもよくないことになるのではないかと私は心配しています。

また別の実験ですが、砂糖の*一%溶液、塩の一%溶液をつくります。砂糖の一%溶液は甘く、塩の一%溶液はしょっぱい。これをどんどん水で薄めていきます。そして甘さやしょっぱさを感じなくなった濃度、それを閾値というのですが、それを測ります。するといまの若い人は、昔の人よりも、はるかに味覚が鈍感になっていることがわかるそうです。

ところが、グルタミン酸ナトリウムの一%溶液をつくって、どんどん薄めていきます。すると、日本の子どもたちは、②こちらに対してはひじょうに敏感になっていて、グルタミン酸ナトリウムに対する味覚器（センサー）がとても*鋭敏になっているそうです。自然のうま味に対しては鈍感、人間がつくりだした新しい調味料には敏感になっているということは、いかに日常から③そのような調味料で味覚がつくられているかということです。

自然の味がわかるということは大切なことです。その民族本来がもっている味がわかるためには、その民族の食を日常的に食べていることが必要なのです。

④そういうことから考えて、日本の子どもたちはいま、味覚の面でも重要な状況におかれているといえましょう。

〈小泉　武夫「いのちをはぐくむ農と食」より〉

*最大公約数的な人間＝ここでは、個性がなく平均的

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

な人間の意味。

＊一％溶液＝こさが一％の液。たとえば、一グラムの砂糖を九十九グラムの水でうすめた液は、砂糖の一％溶液となる。

＊鋭敏＝感じ方がするどいこと。

---

(1)　――線①「このままでは～よくないことになる」とありますが、どうなることがよくないことなのですか。文中の言葉を使って、四十字以内(いない)で答えなさい。

(2)　――線②「こちら」の指すものを、文中から十一字でぬき出しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　——線③「そのような調味料」とは、どんな調味料ですか。文中からぬき出しなさい。

(4)　——線④「そういうこと」は、どんなことを指していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　民族がもともともっている味がわかるためには、その民族が食べているものをいつも食べている必要があること。

イ　民族がもともともっている味がわかるのは、その民族の中の人だけであるということ。

ウ　民族がもともともっている味とは、自然の味であるということ。

エ　昔からある自然の味は、民族で大切にしなければいけないこと。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

民族本来がもっている味がわかるためには、その民族の食を日常的に食べていることが必要なのです。そういうことから考えて、日本の子どもたちはいま、味覚の面でも重要な状況におかれているといえましょう。

元凶はファストフードすなわちレトルト食品、コンビニ弁当、インスタントラーメン、スナック菓子などのようですが、①そんなものばかり食べて育ったら、個性のない子どもたちがぞくぞく出てくるかもしれません。意外にみんなこのような味覚教育に気がつかないのですが、食育の中でほんものの味を教えることを怠ってはいけないと私は思っています。

日本ではいま、「食育をしっかりやりなさい」と国が、食育基本法などを制定して地方に呼びかけていますが、国そのものもひじょうに重要なことをする必要があると私は思います。それは、小学校や中学校の授業の中に日本のすばらしい民族文化を教える時間を入れてやることだ、と私は考えています。

その民族にしか通用しない文化、あるいは語れない文化を民族文化といいます。ヨーロッパでは、二七カ国が統一して*EUが成立し、パスポートは要らなくなり、お金はみんなユーロですむようになりました。ところが一つだけ、②ぜったいに*グローバル化してはいけないものを彼らは知っています。それが民族文化なのです。

〈小泉武夫「いのちをはぐくむ農と食」より〉

*EU＝ヨーロッパ連合。参加している国の間では人や物の移動が自由。

*グローバル化＝地球をひとまとまりのものと考えて、国や民族ごとの違いをなくそうとするもの。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「そんなもの」が指していないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　母の手作りのカレーライス。
イ　コンビニの弁当。
ウ　手軽なインスタントラーメン。
エ　おいしいスナック菓子。

(2)　――線①「そんなものばかり」を食べていると、何がわからなくなるのですか。文を読み、六字で答えなさい。

(3)　――線②の「彼ら」とは、どんな人たちを指していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　個性のない子どもたち。
イ　日本の子どもたち。
ウ　アジアの人たち。
エ　ヨーロッパの人たち。

(4)　――線②の「ぜったいにグローバル化してはいけないもの」として、「彼ら」が持ち続けているものは何ですか。文中から四字でぬき出しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講・確認テスト

次のうち、かなづかいの正しいものを選びなさい。

１　王子
ア　おうじ　イ　おーじ
ウ　おおじ　エ　たまご

２　説明
ア　せつめえ　イ　せつめい
ウ　せつめー　エ　せっめい

３　表紙
ア　ひょーし　イ　ひょうし
ウ　ひょおし　エ　おもてし

４　間近
ア　かんちか　イ　まじか
ウ　かんきん　エ　まぢか

５　始める
ア　はじめる　イ　しめる
ウ　よめる　エ　はぢめる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講・ぼくらのサイテーの夏（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

［タバコの火のふしまつから出火］
［火元は二階のベランダ付近］

新聞の地方版のすみには、そんな小さな記事が出ていた。①人ごとじゃない、という顔をして、おかあさんは目をうるませていた。あにきとぼくは、食事をやめて、栗田の家に走っていった。ケーキ屋のかどをまがると、すぐに、家の形をのこしたまんま、むきだしになった鉄の柱が、ぼくらの前に立ちふさがった。なにかがこげたようなにおいが、そこいらじゅうにただよっていた。門にさがったロープのおくは［立ち入り禁止］になっていて、警察の人や、消防の人が、うろうろしているすがたが見えた。

栗田は、そこにはいなかった。

ぼくらは、たまたま道に出てきた近所の人に、わけを話して、火事のようすをいろいろ聞いた。ベランダから火が見えたとき、まだ、なかにいたおじさんが、「一一九番、お願いします！」と、何度も声をはりあげたこと。のぞみちゃんと栗田の二人は、さんぽに出ていてぶじだったけど、消火のときに、おじさんが手に軽いやけどを負ったこと。消火が終わって二時間もすると、親戚の人がやってきて、二人の子どもを休ませるために、どこかにつれていったこと。

「どこへ行ったか、わかりませんか。」

「さぁ、②そこまでは、わたしもねぇ。なにしろ、あんまり近所づきあいをされないおたくだったから。」

そのおばさんは、そういいながら、歩道の上に飛びちっている燃えかすのような黒っぽいゴミを、大

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

きなクマデで集めはじめた。消火の水をたっぷりすって、でろんでろんにふくれてしまった栗田の本や教科書が、ゴミにまぎれてちらちら見えた。

③頭の中がじんとしびれて、なにがなんだかわからなかった。

夢（ゆめ）じゃない。これはほんとうのこと。ほんとうに起きた火事のあと。と、いくら自分にいい聞かせても、実感がわいてこなかった。

「すごかったぜぇ。水のいきおいで、ガラスがばんばん割（わ）れるんだ。」

④三丁目に住む久保田（くぼた）と川井（かわい）は、火事の現場（げんば）を見た、といって、つぎの日も、そのつぎの日も、塾（じゅく）のロビーでさわぎまくった。火につつまれたやしきのなかから飛びだしたとき、おじさんは、ハムスターの大きなオリを、むねにかかえていたんだそうだ。

「ああいうときって、フツーはさ、金庫とか持って逃（に）げないか？」

「そう、完全（かんぜん）にパニクってたよな、あのおやじ。な。」

と、二人はいった。ぼくは、やつらをけちょんけちょんにやっつけようか、と思ったけれど、それは、とってもくだらないことのような気がして、がまんした。

〈笹生（さそう）陽子（ようこ）「ぼくらのサイテーの夏」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「人ごとじゃない」とは、どういう意味ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　だれかの手を借(か)りて行ったのではない。

イ　やろうと思って、自分でできることではない。

ウ　自分には関係(かんけい)がないと、のんきにしていられない。

□

(2)　新聞の記事を読んで、「ぼく」があわてた様子がわかる一文を文中からさがし、初(はじ)めの五字を答えなさい。

□□□□□

(3)　近所の人が「ぼく」に話してくれた内容(ないよう)が書かれているのは、どの部分ですか。初めと終わりの六字を答えなさい。（。もふくむ。）

□□□□□□ ～ □□□□□□

(4)　――線②「そこまで」とは、何をさしていますか。「～ということまで。」に続(つづ)く形で書きなさい。

□ ということまで。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　――線③「頭の中がじんとしびれて、なにがなんだかわからなかった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　栗田とのぞみちゃんは無事（ぶじ）だということを知って、心からほっとしている。
イ　栗田の家が火事にあってしまったということが、まだ信（しん）じられないでいる。
ウ　くわしい話を教えてくれた近所の人に、お礼を言おうかどうしようかまよっている。
エ　火事が起きてしまった理由を知ることができず、いらいらしている。

□

(6)　――線④「三丁目に住む～さわぎまくった。」とありますが、二人がさわいだのはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　心配しているから。
イ　不安（ふあん）になっているから。
ウ　おもしろがっているから。
エ　助けになりたいから。

□

(7)　――線④を聞いたときのぼくの気持ちは、どんな気持ちですか。次の□に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□と思ったが、□□□□□気がして、□□□した。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講・確認テスト

次のうち、送りがなの正しいものを選びなさい。

1　かんがえる
ア　考る　イ　考える
ウ　考がえる　エ　考んがえる

2　おしえる
ア　教　イ　教る
ウ　教える　エ　教しえる

3　あたたかい
ア　温い　イ　温かい
ウ　温たかい　エ　温たたかい

4　たのしい
ア　楽　イ　楽い
ウ　楽しい　エ　楽のしい

5　くるしい
ア　苦　イ　苦い
ウ　苦しい　エ　苦るしい

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講・詩

一　詩とは何か

くらしの中で、感動したことがらを自分のことばや自分のリズムで短く書き表したものが詩である。必要な言葉だけで感動の高まりを表現することで、自然と詩に感動が生まれてくる。

例　次の詩は、走っている様子を思いうかべながら読むとよい。

びりの　きもち

阪田寛夫

びりのきもちが　わかるかな　……1
みんなのせなかや　足のうら　……2
じぶんの鼻が　みえだすと　……3
びりのつらさが　ビリビリビリ　……4
だからきらいだ　うんどうかい　……5
まけるのいやだよ　くやしいよ　……6
おもたい足を　追いぬいて　……7
びりのきもちが　ビリビリビリ　……8

二　詩の特色と味わい方

・連…一行あけることによって詩をいくつかのまとまりに分けたときの、一つのまとまりを指す。

・表現…詩は、作者の感動したことを短い言葉で表現するために、さまざまなくふうがなされている。

・リズムを味わう

→上の詩では、運動会で「びり」になる気持ちを、「びり」という言葉を生かしたリズムの言葉をくり返すことで表していて、詩にリズムが生まれている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

かぼちゃのつるが

原田（はらだ）　直友（なおとも）

かぼちゃのつるが
はい上がり
はい上がり
葉をひろげ
葉をひろげ
はい上がり
葉をひろげ
細い先は
竹をしっかり<u>にぎって</u>
屋根の上に
はい上がり
短くなった竹の上に
はい上がり
小さなその先たんは
いっせいに
赤子（あかご）のような手を開いて
ああ　今
空をつかもうとしている

(1)　この詩のとくちょうをまとめた文になるように、次の□に入る言葉を詩の中からぬき出しなさい。

［　　　　　］という言葉をくり返すことで、［　　　　　　　］がどんどんいきおいよくのびていく様子を表している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(2)　――線「にぎって」は、何のどんな様子を表していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　子どもたちが、竹をつかんでいる様子。
イ　竹が、ひろがった葉のかげにかくれている様子。
ウ　つるが、竹にまきついている様子。
エ　かぼちゃの実が、竹にぶらさがっている様子。

(3)　この詩で、作者の感動は、どこにいちばん表れていますか。詩の中のひと続きの二行をぬき出しなさい。

---

(4)　詩から受ける感じの説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　重苦しいよどんだふんい気がただよっている。
イ　リズムがあり、たくましさ、力強さが伝わってくる。
ウ　さわやかな朝のような、すがすがしさが表現されている。
エ　生き物へのやさしいまなざしが感じ取れる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

三日ぼうず

丸山（まるやま）　薫（かおる）

あれもこれもと　やりはじめても
つづけてやらねば　三日ぼうずだ
三日のぼうずは　おかしな名だな
どこにいるのか　三日のぼうさん

おーいと　かすかなへんじをしたよ
はずかしそうな　へんじだったよ
オヤオヤ　あれはおなかの中だ
ぼくのおなかに　ぼうさんいたよ

きょうは元日（がんじつ）　ことしのはじめ
コケコッコーの　とりの声きき
初日（はつひ）の光に　こころはさらり
うまれかわった　気持（きもち）になろう

ずるいぼうずを　おいだすために
きょ年のぼうずを　おいだすために
ひとつでいいから　よいこときめよう
それをかならず　やりとげようよ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) この詩は、いくつの連（まとまり）からできていますか。漢数字で答えなさい。

［　　］つ

(2) 二連目の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 動きや様子を表した言葉をくり返して、はずむようなリズムを生み出している。

イ かたかなを使うことによって変化をもたせ、詩に不気味な感じをあたえている。

ウ 「三日ぼうず」を人にたとえながら、楽しく、面白おかしく表現している。

エ よびかけの言葉をアクセントにして、きんちょう感をただよわせている。

［　　］

(3) ――線「こころはさらり」には、作者のどんな気持ちがこめられていますか。次の［　］に入る言葉を詩の中からぬき出しなさい。

［　　］の朝に

［　　　　　　　］自分になって、

また歩み始めようという気持ち。

(4) 作者の決意が具体的に表れている部分を詩の中から二行でさがし、ぬき出しなさい。

［　　　　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

かきの実

与田(よだ)　準一(じゅんいち)

つゆが　しもに変(か)わり、
しもは朝ごとに白くなる。

村のかきの実は、赤くうれ、
赤く、赤くうれ、
低(ひく)いえだから、だんだん、減(へ)っていく。

空は一日、青くすみ、
青く、青くすみ、
からすの群(むれ)が
ゴマをまいたように飛(と)ぶ。

そんな日が続(つづ)き、
同じような日が続き、
こずえに残(のこ)されたかきの実、一つ。

実は赤く光り、
赤く、赤く光り、
冬がきた信号燈(しんごうとう)のように、
村でいちばん早く朝日をあびる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　この詩にえがかれている季節（きせつ）はいつですか。次の□に入る季節をそれぞれ漢字で書きなさい。

□の終わりから□の初（はじ）め。

(2)　この詩は、色をじょうずに使っています。それを説明（せつめい）した次の文の□に入る色を詩の中からさがし、それぞれぬき出しなさい。

かきの実の色である□のくり返しを中心に、しもの□、空の□、からすの黒、さらには、朝日のこがね色の光など、読む人に色を強く印象（いんしょう）づけるくふうをしながらえがいている。

(3)　この詩の中で、「からすの群」の飛ぶ様子を表しているのはどの行ですか。詩の中の一行をぬき出しなさい。

(4)　作者の感動の中心は何ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選（えら）び、記号で答えなさい。

ア　最後（さいご）にたった一つ残って、朝日をあびているかきの実のあざやかな美しさ。

イ　真っ赤（まか）にじゅくしたかきの実を、口にふくんだときのたとえようのないおいしさ。

ウ　早起きをして、朝日をあびながらむねいっぱいに空気をすいこみ、しんこきゅうしたときのすがすがしさ。

エ　からすの数も少しずつ減（へ）り、かきの実もどんどんなくなる中で、季節が深まっていくことへのさびしさ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講・確認テスト

次のうち、送りがなの正しいものを選びなさい。

1　みじかい
ア　短　　イ　短い
ウ　短かい　　エ　短じかい

2　かなしい
ア　悲　　イ　悲い
ウ　悲しい　　エ　悲なしい

3　あたらしい
ア　新　　イ　新い
ウ　新しい　　エ　新らしい

4　あかるい
ア　明　　イ　明い
ウ　明るい　　エ　明かるい

5　こころみる
ア　試る　　イ　試みる
ウ　試ろみる　　エ　試こころみる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講・漢字（音読み、訓読み、漢字辞典）

一　漢字の音と訓

漢字には、「音」と「訓」の二通りの読み方がある。

例　水

スイ　音読み——漢字が日本に伝わったときの中国の発音をもとにした読み方

みず　訓読み——その漢字の意味に合う日本語をあてはめた読み方

ー　音読みと訓読みのちがいをおさえておこう。

①　音読みは一字だけでは意味がわかりにくい。二字以上で熟語として使われることが多い。

例　下（カ）→地下　下（ゲ）→下水

②　訓読みは一字だけでも意味がわかる。送り仮名によって読み方が変わるものが多い。

例　下→　下（お）りる　下（くだ）る　下（さ）がる

③　教科書や辞典で調べたとき、「音」は片仮名で、「訓」は平仮名で書き表されている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

２　いろいろな読みをもつ漢字をおさえておこう。

①　音読み・訓読みの両方をもつ漢字

例　暗（アン・くら―い）　種（シュ・たね）

②　音読みだけをもつ漢字

例　員（イン）　題（ダイ）

③　訓読みだけをもつ漢字

例　畑（はたけ・はた）

④　音読みを二つ以上もつ漢字

例　色（シキ・ショク）　分（ブ・フン・ブン）

⑤　訓読みを二つ以上もつ漢字

例　魚（さかな・うお）

⑥　訓読みとまちがえやすい音読みの漢字

例　愛（アイ）　絵（エ）　本（ホン）

⑦　音読みとまちがえやすい訓読みの漢字

例　野（の）　関（せき）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1 次の漢字の音読みをカタカナで、訓読み（くんよ）をひらがなで書きなさい。

(1) 海　音［　］　訓［　］

(2) 草　音［　］　訓［　］

(3) 休　音［　］　訓［　む］

(4) 売　音［　］　訓［　る］

2 次の読み方をする漢字を書きなさい。

(1) キン／ちか―い　［　］

(2) ジ／とき　［　］

(3) ドウ／おな―じ　［　］

(4) ユウ／あそ―ぶ　［　］

3 次の漢字の読みの中から、まちがいを一つずつ見つけて丸をつけなさい。

(1) 周（シュウ・まわ―り・あた―り）

(2) 型（ケイ・かたち・かた）

(3) 争（ソウ・たたか―う・あらそ―う）

4 次の漢字に、音読みと訓読みのどちらもあればＯを、音読みしかなければ×を、訓読みしかなければ△を書きなさい。

(1) 鉄［　］

(2) 貝［　］

(3) 粉［　］

(4) 脈［　］

(5) 皿［　］

(6) 孫［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5 次の漢字の音読みを記号で答えなさい。

(1) 色　ア しょく　イ いろ　□

(2) 心　ア しん　イ こころ　□

(3) 旗　ア はた　イ き　□

(4) 岸　ア きし　イ がん　□

(5) 君　ア きみ　イ くん　□

(6) 菜　ア さい　イ な　□

---

6 次の漢字の訓読(くんよ)みを記号で答えなさい。

(1) 歌　ア か　イ うた　□

(2) 松　ア しょう　イ まつ　□

(3) 千　ア ち　イ せん　□

(4) 市　ア し　イ いち　□

(5) 札　ア ふだ　イ さつ　□

(6) 節　ア ふし　イ せつ　□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　漢字辞典（漢和辞典）の使い方

漢字の読み方や意味がわからないとき、漢字の使い方や成り立ちを調べるときには、漢字辞典（漢和辞典）を使うとよい。

1　部首さくいんを使う――部首がわかっているとき

例

六画	
竹	八三四
米	八四七
糸	八五一
缶	八七九

① 「給」を調べるには――部首は「糸（いとへん）」で六画。

② 部首さくいんの六画を見て、「糸（いとへん）」の出ているページをさがす。

③ 「合」（部首以外の部分）の画数を数え、「糸」の六画のページで、「給」をさがす。

2　音訓さくいんを使う――読み方がわかっているとき

例

ガン	
丸	一四六
元	二一五
…	…
岸	二一七〇

① 「岸」を調べるには――「ガン」という音読みがわかっていれば、音訓さくいんの「ガン」を見て、「岸」の出ているページをさがす。

② そのページで、「岸」をさがす。

3　総画さくいんを使う――部首も読み方もわからないとき

例

六画	
先	三四六
成	五〇九

① 「成」を調べるには――総画数は六画なので、総画さくいんの六画を見て、「成」の出ているページをさがす。

② そのページで、「成」をさがす。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1 次の文の［　］A～Eにあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

漢字辞典の引き方には、三つの方法がある。例えば、「表」という漢字の［A］がわかっている場合には、［A］さくいんの「ころも」のところを引く。また、読み方がわかっている場合には、［B］さくいんで、「［C］」や「おもて」などを引く。読み方も部首もわからない場合は、［D］さくいんで［E］画のところを引けばよい。

ア 総画　**イ** 読み方　**ウ** 部首
エ 五十音訓　**オ** 音訓　**カ** 画数
キ ハツ　**ク** ヒョウ　**ケ** 八
コ 九

A［　］　B［　］　C［　］　D［　］　E［　］

2 「験」という漢字を、漢字辞典（漢和辞典）で調べるときについて、次の問いに答えなさい。

(1) 部首さくいんで調べようと思います。部首の部分をぬき出し、部首名を答えなさい。

［　］　［　］

(2) (1)の部首のページで「験」をさがすには、その部首の何画のところを見ればよいですか。漢数字で答えなさい。

［　］画

(3) 音訓さくいんで調べようと思います。音読み、訓読みのどちらで調べればよいですか。

［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) 「験」の部首も読み方もわからないときの調べ方として、次の文の［　］①・②にあてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。ただし、②は漢数字で答えること。

［①　　］さくいんの、［②　　］画のところを見る。

---

3 次の漢字辞典の使い方についてのべた文のうち、まちがっているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 漢字辞典の漢字は、部首別（ぶしゅべつ）にならんでいる。

イ 部首さくいんは、部首の画数の少ないものから順にならんでいる。

ウ 音訓（おんくん）さくいんの読みは、五十音順にならんでいる。

エ 音訓さくいんは、漢字の音読み、訓読みの両方がわかっていないと調べられない。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講・確認テスト

次のうち、筆順の正しいものを選びなさい。

1 庭
ア 广 庋 庭
イ 广 庒 庭
ウ 壬 廷 庭
エ 廴 廷 庭

2 式
ア 一 三 式 式
イ 一 弋 式 式
ウ 一 三 三 式
エ 一 弋 弋 式

3 楽
ア 白 臬 楽
イ 白 泊 楽
ウ 氵 泊 楽
エ 氵 㳟 楽

4 右
ア 一 ナ 右
イ 一 石 右
ウ ノ 右 右
エ ノ ナ 右

5 用
ア 冂 用 用
イ 冂 月 用
ウ 冂 月 用
エ 川 月 用

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講・ことわざ、故事成語

一　ことわざ

ことわざとは、昔から言い伝えられている人間の生き方や考え方についての教えやいましめ、生活の知えがこめられた言葉のこと。

1　動物が出てくることわざ

例　さるも木から落ちる（＝かっぱの川流れ）——どんな名人でも失敗することがある。

2　数字が出てくることわざ

例　石の上にも三年——がまんすれば必ず成功する。

3　そのほかのことわざ

例　弱り目にたたり目（＝泣きっ面にはち）——不運が重なること。

二　慣用句

慣用句とは、二つ以上の言葉が結び付いて、一つの新しい意味を表すようになった言葉のこと。生活の中から生まれ、言い習わされてきた言葉なので、身近なものを使った言葉が多い。

1　体の一部が出てくる慣用句

例　耳が早い——うわさなどを聞きつけるのが早い。

2　動物が出てくる慣用句

例　ねこをかぶる——人の前でおとなしくする。

3　そのほかの慣用句

例　さじを投げる——見こみがないとあきらめる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1 次のことわざ・慣用句の意味をあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) お茶をにごす □

(2) かたを持つ □

(3) 転ばぬ先のつえ □

(4) うどの大木 □

(5) 馬の耳に念仏 □

(6) 手が足りない □

ア 前もって用心すること。

イ その場をごまかすこと。

ウ 人手が不足していること。

エ 味方をすること。

オ いくら言ってもきき目がないこと。

カ 体は大きいが、役に立たないこと。

---

2 次の□に漢字一字をあてはめ、ことわざを完成させなさい。ただし、(1)～(4)には漢数字が入ります。

(1) □里の道も一歩から

(2) なくて□くせ

(3) 早起きは□文の得

(4) 一を聞いて□を知る

(5) □も歩けばぼうに当たる

(6) 雨ふって□固まる

(7) □から出たさび

(8) かわいい子には□をさせよ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3 次のことわざと同じ意味のことわざをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) 弘法(こうぼう)にも筆のあやまり　［　］

(2) ねこに小判(こばん)　［　］

(3) 口はわざわいのもと　［　］

(4) 月とすっぽん　［　］

(5) 急がば回れ　［　］

ア きじも鳴かずばうたれまい
イ さるも木から落ちる
ウ ちょうちんにつりがね
エ ぶたに真じゅ
オ せいては事をしそんじる

---

4 次の慣用句(かんようく)の意味を左の（　）からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) 鼻にかける
（**ア** くやしがる　**イ** じまんする　**ウ** あまえる）　［　］

(2) 手を焼(や)く
（**ア** こらしめる　**イ** やけどする　**ウ** こまる）　［　］

(3) 目が回る
（**ア** 苦しい　**イ** いそがしい　**ウ** 楽しい）　［　］

(4) 頭が下がる
（**ア** 礼をする　**イ** うなずく　**ウ** 感心する）　［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　故事成語

中国から伝わった古い出来事や物語がもとになってできた言葉で、ことわざとにている。

例　他山の石――他人の悪い行いを、自分を向上させるために役立てること。
矛盾――つじつまが合わないこと。

使い方
・かれのミスを他山の石として、気を引きしめよう。
・君の話は矛盾だらけだ。

1　次の故事成語の意味をあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1)　覆水盆に返らず　□

(2)　蛇足　□

(3)　完璧　□

(4)　背水の陣　□

ア　一歩も引けない場面で、全力をつくすこと。
イ　欠けたところがないこと。
ウ　よけいなものを付け加えてしまうこと。
エ　一度したことは、元にもどすことはできない。
オ　気持ちがぴったりと合うこと。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

２ 次の故事成語の意味を、あとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) 温故知新

(2) 漁夫の利

(3) 逆鱗にふれる

(4) 四面楚歌

ア 二人が争っているあいだに、第三者が苦労せずして利益をもっていくこと。

イ 昔のことをよく知り、そこから新しい知識や教えを得ること。

ウ 目上の人のいかりを買うこと。

エ 味方がなく、周りがすべててきであること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講●確認テスト

次のうち、筆順の正しいものを選びなさい。

１　町

ア　丨　冂　冃　用　田　田一　町

イ　丨　冂　冊　用　田　田一　町

ウ　𠃊　匚　彐　臣　田　田一　町

エ　𠃊　凵　山　皿　田　田一　町

２　声

ア　一　十　士　产　声　声　声

イ　丶　十　士　声　声　声　声

ウ　一　十　士　声　声　声　声

エ　丶　十　产　声　声　声

３　発

ア　フ　ヌ　癶　…　…　…　…　発

イ　フ　ヌ　癶　…　…　…　…　発

ウ　フ　ヌ　…　…　…　…　…　発

エ　フ　ヌ　…　…　…　…　…　発

４　泳

ア　丶　冫　氵　汀　汀　泳　泳　泳

イ　丶　氵　永　永　永　泳　泳　泳

ウ　丶　冫　氵　汀　汀　泳　泳　泳

エ　丶　氵　永　永　永　泳　泳　泳

５　改

ア　乛　⺄　…　…　攵　攵　改

イ　丿　𠂉　攵　攵　攵　攵　改

ウ　乛　コ　己　己　改　改　改

エ　乛　コ　己　己　改　改　改

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講・広告と説明書の読み比べ、わたしの考えたこと

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

石田さんの家では、体温計を新しく買いかえました。石田さんは、さっそく、どのように使うか知ろうと思って取りあつかい説明書を読んでみました。すると、お店で見た広告と取りあつかい説明書とでは、書かれていることがらや書き方にちがいがあることに気がつきました。

広告は、商品を売るために、その商品の特ちょうやすぐれているところを、できるだけ多くの人にうまく伝えようとするものです。そのため、多くの人の目にとまるように、キャッチコピー、写真や絵の使い方、色やレイアウトなどに①くふうがこらされています。

②一方、取りあつかい説明書は、商品を買った人が使い方を正しく理解（りかい）して安全に使うことができるように、使用方法や使用上の注意などを中心に説明したものです。したがって、使ううえで知っておく必要のあることがらがくわしく書かれています。また、使っていてこまったことが起きたときに、どうすればよいかも書かれています。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　石田さんは、取りあつかい説明書を読んで、どんなことに気づきましたか。文章中から五十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えましょう。

(2)　――線①「くふうがこらされています」とありますが、具体的にどんなところにくふうがこらされているのですか。三つ答えましょう。

(3)　――線①「くふうがこらされています」とありますが、それは何のためですか。

(4)　――線②「一方」にはどんな働きがありますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　もう一つの話題に変える。
イ　前の話題につけ足す。
ウ　全く別の話題にうつる。
エ　前の話題にもどる。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5) 「広告」・「取りあつかい説明書」とは、どんなものですか。「〜もの。」に続くように文章中からぬき出し、初めと終わりの四字を答えましょう。）

「広告」

□□□□〜□□□□もの。

「取りあつかい説明書」

□□□□〜□□□□もの。

(6) 「取りあつかい説明書」の働きとしてあてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア　こまったことが起きたときは、どうすればよいかを伝える。

イ　商品の特ちょうやすぐれているところを多くの人に伝える。

ウ　使ううえで知っておく必要のあることがらを伝える。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

文章を書く

◆体験したことをもとに文章を書く◆

　自分が考えたことを文章に書く場合、文章に書く内容（ないよう）や組み立てを事前によく考えてから書くとよい。そうすると、読み手にも分かりやすく、自分の考えをきちんと伝えることができる。

●書く前にしておくとよいこと

①題材をさがす。

　1　自分の身の回りをよく見て、
　・何か気づいたこと
　・ふしぎに思うこと
　などはないか、考える。

　2　題材となった出来事から、自分はどんな考えをもったかを書く。
　・考えるきっかけとなった出来事は何か。
　・自分の考えとは何か。

②文章の組み立てを考える。

　全体を大きく三つに分けて構成（こうせい）する。

始め
・自分の考え

中
・考えの理由
・考えるきっかけとなった出来事

終わり
・自分の考え
・伝えたいこと

●書いたあとにするとよいこと

　すいこうする。

　文章を書き終わったら、読み返してみる。
　・漢字や言葉づかいなど、まちがいはないか。
　・より分かりやすい文章になるように、なっとくいくまで直す。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

包み紙をさい利用しよう

四年一組　野村　れな

[1]みなさんは、プレゼントをもらったとき、包み紙をどうしていますか。わたしは、包み紙をさい利用するとよいと思います。

[2]そう考えた理由は、二つあります。一つは、包み紙をすててしまうのはもったいないと思うからです。もう一つの理由は、プレゼントにはくれた人の気持ちがこもっているので、包み紙もだいじにしたいと思うからです。

[3]わたしが、このことを考えたきっかけは、この前のたん生日に、山川さんからプレゼントをもらったことです。プレゼントの中身は、わたしがほしかったノートやカラーペンなどの文ぼう具でした。家に帰って、プレゼントを出して、包んであった紙とリボンをすてようとしたとき、とてもきれいな青色の紙だったので、もったいないなと思いました。ていねいに包みを開けたので、やぶれていなかったし、あまりしわもありませんでした。プレゼントをくれたときに、山川さんが、

「れなちゃんは青い色が好きだから、青い包み紙とリボンにしてもらったよ。」

と言ってくれたのを思い出すと、やはりすてるのはもったいないと思いました。

[4]どうしようかなと考えていたら、お母さんが、「包み紙を折って、本のカバーを作ってみたら。」と教えてくれました。それで、本のカバーを作りました。学校で山川さんに見せると、喜んでくれたので、わたしはうれしくなりました。

[5]このことから、わたしは、今まで包み紙をすててしまっていたけれど、何かにさい利用するとよいと思いました。みなさんにも、ぜひ、さい利用してほしいと思います。

[1]～[5]は段落（だんらく）番号をしめします。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 野村さんが自分の考えを書いているところはどの段落ですか。全てを段落番号で答えましょう。

(2) 野村さんは、(1)のような考えをもった理由をどこに書いていますか。段落番号で答えましょう。
また、野村さんは理由を書くとき、どんなくふうをしていますか。ふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

① 理由が書かれている段落

② 書き方のくふう

ア 理由がたくさんあるので、思いついた順(じゅん)に書いている。

イ 初めに理由の数をしめし、「一つは、」「もう一つの」と区切って書いている。

ウ 伝えたい理由を一つの文にまとめて書いている。

(3) 3・4段落では、野村さんが考えるきっかけとなった出来事について書いています。それぞれの段落では、出来事の何について書いていますか。ふさわしいものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 出来事の中で思ったことや感じたこと。

イ 出来事のくわしい内容(ないよう)。

ウ 出来事が起きた理由。

3

4

(4) 野村さんの文章を、「始め」「中」「終わり」に分けます。分け方としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 1―2―3・4・5

イ 1―2・3―4・5

ウ 1―2・3・4―5

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　〈例〉にならって、あなたの身の回りから気づいたことをもとに、「自分の考え」と「考えるきっかけとなった出来事」を書きましょう。

〈例〉

・あなたの考え

ぎゅうにゅうの紙パックをさい利用しておもちゃを作る

・考えるきっかけとなった出来事

ぎゅうにゅうを飲み終わったあとの紙パックをすててしまうのはもったいない。

・あなたの考え

・考えるきっかけとなった出来事

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講・確認テスト

次の言葉の意味を後から選びなさい。

１　校門を出る
ア　外に出る　イ　出発する
ウ　あらわれる　エ　売れる

２　月が出る
ア　外に出る　イ　出発する
ウ　あらわれる　エ　売れる

３　旅に出る
ア　外に出る　イ　出発する
ウ　あらわれる　エ　売れる

４　ぼうしをとる
ア　予約する　イ　ぬぐ
ウ　手にもつ　エ　うばう

５　宿をとる
ア　予約する　イ　ぬぐ
ウ　手にもつ　エ　うばう

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講・セロ弾きのゴーシュ

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔ゴーシュがセロ（＝チェロ）の練習をしているところにかっこうがやってきた。〕

するとかっこうはたいへんよろこんで途中から、かっこう　かっこう　かっこう　かっこうとついて叫びました。それももう一生けん命からだをまげていつまでも叫ぶのです。

ゴーシュはそろそろ手が痛くなって、

「こら、いいかげんにしないか」と言いながらやめました。

するとかっこうは残念そうに眼をつりあげて、まだしばらくないていましたがやっと、

「かっこう　かくう　かっ　かっ　かっ　かっ　か」

といってやめました。ゴーシュが①すっかりおこってしまって、

「こら、とり、もう用が済んだらかえれ」と言いました。

「②どうかもう一ぺん弾いてください。あなたのはいいようだけれどもすこしちがうんです」

「なんだと、おれがきさまに教わってるんではないんだぞ。帰らんか」

「どうか、たったもう一ぺんおねがいです。どうか」

かっこうは頭を何べんもてんてん下げました。

「ではこれっきりだよ」

ゴーシュは弓をかまえました。かっこうは、

「くっ」とひとつ息をして、

「ではなるべく永くおねがいいたします」といってまた一つおじぎをしました。

「③いやになっちまうなあ」ゴーシュはにが笑いしながら弾きはじめました。

〈宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　かっこうが叫ぶ様子はどのように表されていますか。次の［　］に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

一生けん命［　　　　　　］いつまでも叫ぶ。

(2)　――線①「すっかりおこってしまって」とありますが、それはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選（えら）び、記号で答えなさい。

ア　かっこうがゴーシュをばかにしたようになくから。

イ　かっこうがなくのをなかなかやめなかったから。

ウ　かっこうがゴーシュにむかって目をつりあげたから。

エ　かっこうがいくら言ってもなかなかかえらないから。

［　］

(3)　――線②「どうかもう一ぺん弾いてください」とありますが、なぜそう言ったのですか。次の［　］に入る言葉を、文中からぬき出しなさい。

ゴーシュのセロは［　　　　　　］と思ったから。

(4)　――線③「いやになっちまうなあ」とゴーシュが言ったのはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　かっこうが弓なりになってかまえたから。

イ　かっこうの息のしかたがおかしかったから。

ウ　かっこうがしつこくおじぎをするから。

エ　かっこうがセロを永くやってくれといったから。

［　］

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

するとかっこうはまたまるで本気になって、

「かっこう　かっこう」とからだをまげてじつに一生けん命叫(さけ)びました。

ゴーシュははじめはむしゃくしゃしていましたが、いつまでもつづけて弾(ひ)いているうちにふっとなんだかこれは鳥の方がほんとうのドレミファにはまっているかなという気がしてきました。

どうも弾けば弾くほどかっこうの方がいいような気がするのでした。

「えいこんなばかなことしていたらおれは鳥になってしまうんじゃないか」

とゴーシュは①いきなりぴたりとセロをやめました。

するとかっこうはどしんと頭をたたかれたようにふらふらっとして、それからまたさっきのように、

「かっこう　かっこう　かっこう　かっ　かっ　かっ　かっ」

と言ってやめました。それから恨(うら)めしそうに、ゴーシュを見て、

「なぜやめたんですか。ぼくらならどんないくじないやつでも、②のどから血が出るまでは叫ぶんですよ」と言いました。

「何を生意気(なまいき)な。こんなばかなまねをいつまでしていられるか。もう出て行け。見ろ。夜があけるんじゃないか」ゴーシュは窓(まど)を指さしました。

東のそらがぼうっと銀いろになって、そこをまっ黒な雲が北の方へどんどん走っています。

「③ではお日さまの出るまでどうぞ。もう一ぺん。ちょっとですから」

かっこうはまた頭を下げました。

〈宮沢(みやざわ)　賢治(けんじ)「セロ弾きのゴーシュ」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　ゴーシュが、かっこうに合わせてセロを弾いているうちに、急に考えついたことを三十字でさがし、初め(はじ)と終わりの三字をぬき出しなさい。

初め [ ] 終わり [ ]

(2)　――線①「いきなりぴたりとセロをやめました」とありますが、それはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び(えら)、記号で答えなさい。

ア　これでセロがうまくなるとは思えなかったから。

イ　自分に自信(じしん)がなくなってしまう気がしたから。

ウ　こんなことをしていたらばかにされると思ったから。

エ　だんだん鳥がにくらしくなってきたから。

[ ]

(3)　――線②「のどから血が出るまでは叫ぶんですよ」とありますが、そう言ったのはなんのためですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ゴーシュが弾くのをやめないようにとはげますため。

イ　弾くのをやめてしまったゴーシュをばかにするため。

ウ　人間を見下してなかまをじまんするため。

エ　ゴーシュに弾くのをやめさせるため。

[ ]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4)　――線③「ではお日さまの出るまでどうぞ」と言ったのはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　お日さまが出るまで叫びたかったから。

イ　ゴーシュがけんかごしに言うのでかっとしたから。

ウ　少しでもながくセロを弾かせようとしたから。

エ　夜があけると元気になるだろうと思ったから。

□

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講・確認テスト

次の言葉の意味を後から選びなさい。

1　きげんをなおす

ア　いい状態にする　　イ　修理する

ウ　治療する　　エ　かたづける

2　病気をなおす

ア　いい状態にする　　イ　修理する

ウ　治療する　　エ　かたづける

3　壊れた車をなおす

ア　いい状態にする　　イ　修理する

ウ　治療する　　エ　かたづける

4　値段が上がる

ア　高いところにいく

イ　水中から陸に行く

ウ　お金が高くなる

エ　部屋に入る

5　家にあがる

ア　高いところにいく

イ　水中から陸に行く

ウ　お金が高くなる

エ　部屋に入る

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講・色さいとくらし

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

わたしたちは、さまざまな色さいに囲まれてくらしています。店先には色とりどりの商品がならび、町行く人々は、自分の好きな色の服を着て歩いています。公園の木々に目をやると、自然の緑が目に飛びこんできますが、木の種類によっては、季節によって大きく色が変わるものもあります。生活の中にあるさまざまないろどりを見ていると、楽しい気持ちになったり、落ち着いた気持ちになったりすることもあるでしょう。

色には、物を目立たせたり、区別をしやすくしたりする働きがあります。また、印象を変える力も持っています。くらしの中の色は、<u>こうした</u>効果を活用して選ばれています。

赤は、見る人を強くしげきし、真っ先に人の目につく色です。そのため、郵便ポストや消防自動車、火災報知器などは赤くぬってあります。町の交差点などに立っている信号機では、赤は「止まれ」を表す約束の色になっています。

黄色は、明るく、広がっていくような感じをあたえる色で、物をはっきりと目立たせます。また、赤とちがって、暗い所でもよく目立ちます。そのため、子どもたちの通学用のぼうしやかさなどによく用いられます。

〈教科書書きおろし「色さいとくらし」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　わたしたちは、何に囲まれてくらしているのですか。文章中から三字でぬき出しましょう。

さまざまな［　　　］

(2)　(1)を見ていると、わたしたちはどんな気持ちになったりするといっていますか。二つ答えましょう。

［　　　］［　　　］

(3)　――線「こうした効果」とありますが、くらしの中の色はどのような効果を活用して選ばれているのですか。文章中の言葉を使って三つ答えましょう。

・物を［　　　］
・区別を［　　　］
・印象を［　　　］

(4)　「赤」が、郵便ポストや消防自動車、火災報知器などに使われているのはなぜですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

［　　　］

(5)　「黄色」は、どんな感じをあたえる色ですか。また、その特ちょうを生かして、何によく用いられているのですか。

・どんな感じ［　　　］
・用いられているもの［　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

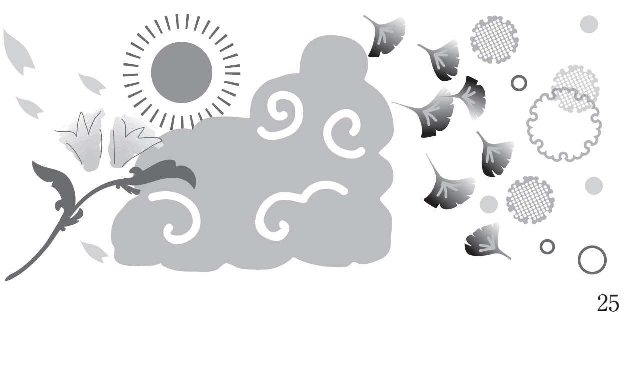
　近年、町なみの色さいを考えるときには、昔からの伝統的な町なみの色づかいが注目されています。昔からの家には木や土、石など、自然の素材による色が多く使われているため、①落ち着いた印象をあたえます。また、やや強い色調の赤いかわらの屋根なども、周りの景色との調和が取れていれば、落ち着きが感じられるようになります。

　そもそも、わたしたちは、②自然の生み出す色さいの中でくらしてきました。草木のめぶきや、色とりどりの花。青い空や青い海に、夕焼けの色。あざやかなもみじや、白い雪。四季のうつり変わりをゆたかに見ることのできる日本では、自然の中にある多くの色さいを感じることができます。わたしたちは、自然のおりなす色さいの調和の中でくらしてきたといえるでしょう。

　技術の進歩により、わたしたちが作り出すことのできる色はかくだんにふえました。自由に色を作り出すことができなかったころにくらべ、今では多くの色を自由に使うことができます。

　しかし、それらの色をただ好きなように使ったのでは、色さいの持つ本当のゆたかさを感じ取ることはできません。自然の中にひそむ色さいや、昔から伝わる伝統的な色づかいにも目を向け、さまざまな色を上手に使うことで、わたしたちのくらしはいっそうゆたかなものになることでしょう。

〈教科書書きおろし「色さいとくらし」より〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 近年、町なみの色さいを考えるとき、何が注目されているのですか。文章中からぬき出しましょう。

(2) ――線①「落ち着いた印象」とありますが、それは何が多く使われているからですか。

(3) ――線②「自然の生み出す色さい」とありますが、これを具体的に書いている部分を文章中からさがし、初めと終わりの三字を答えましょう。（。は一字に数えません。）

〜

(4) わたしたちは、どんな中でくらしてきたといえるのですか。文章中から十三字でぬき出しましょう。

---

(5) この文章での「くらしの中の色さいのゆたかさ」の説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア わたしたちは自然の生み出す色さいの中でくらしてきたので、その色さいの中にもどることがくらしのゆたかさにつながる。

イ 技術で作り出した色や、自然の中にひそむ色や伝統的な色づかいを上手に使うことで、くらしの色さいはいっそうゆたかになる。

ウ 昔から伝わる伝統的な色さいの中にしか、色さいのゆたかさを感じることはできない。

エ 今では技術の進歩で自由に色を作り出せるので、わたしたちのくらしの色さいはいっそうゆたかになった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講・確認（かくにん）テスト

次の中から類義語（るいぎご）を選びなさい。

1　天候
ア　天使　イ　気候
ウ　満天　エ　天地

2　進歩
ア　向上　イ　歩数
ウ　進度　エ　上気

3　見物
ア　予見　イ　再見（さいけん）
ウ　見学　エ　発見

4　方法
ア　手段（しゅだん）　イ　意味
ウ　原因（げんいん）　エ　理由

5　短所
ア　長所　イ　短足
ウ　時短　エ　欠点

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講・ごんぎつね①

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

昔は、わたしたちの村の近くの、中山という所に、小さなおしろがあって、中山様というおとの様がおられたそうです。

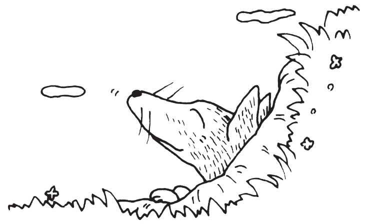
その中山から、少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほってすんでいました。そして、夜でも、昼でも、辺りの村へ出てきて、①いたずらばかりしました。畑へ入っていいもをほり散らし［A］、菜種がらのほしてあるのへ火をつけ［B］、ひゃくしょう家のうら手につるしてあるとんがらしをむしり取っていっ［C］、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中に［D］いました。

②雨が上がると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れていて、もずの声がきんきんひびいていました。

ごんは、村の小川のつつみまで出てきました。辺りのすすきのほには、まだ、雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水がどっとましていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすすきや、はぎのかぶが、黄色くにごった水に横だおしになって、もまれています。ごんは、川下の方へと、ぬかるみ道を歩いていきました。

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ごんは、山のどんなところにすんでいましたか。文章中から十四字でぬき出しましょう。

(2) ——線①「いたずらばかりしました」とありますが、なぜいたずらばかりしていたと考えられますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　村の近くにいたので、畑をあらさないと食べ物がなかったから。
イ　ひとりぼっちでさみしかったから。
ウ　人間がきらいだったから。
エ　おとの様に、自分の力を見せたかったから。

(3) ［　］A～Cには同じ言葉が入ります。もっともよくあてはまる言葉を、ひらがな二字で答えましょう。

(4) ［　］Dにもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ふざけて　　イ　つっ立って
ウ　しゃがんで　エ　走り回って

(5) ——線②「雨が上がると」とありますが、雨が上がったときのごんの気持ちを表している言葉を、文章中から五字でぬき出しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

兵十（ひょうじゅう）は、それから、びくを持って川から上がり、びくを土手に置いといて、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。

兵十がいなくなると、ごんは、ぴょいと草の中から飛び出して、びくのそばへかけつけました。ちょいと、いたずらがしたくなったのです。ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中をめがけて、ぽんぽん投げこみました。どの魚も、「トボン」と音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。

いちばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、何しろ、ぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。ごんは、じれったくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。うなぎは、［A］いって、ごんの首へまきつきました。そのとたんに、兵十が、向こうから、

「うわあ、ぬすとぎつねめ。」

と、どなりたてました。ごんは、びっくりして、飛び上がりました。うなぎをふりすててにげようとしましたが、うなぎは、ごんの首にまきついたままはなれません。ごんは、そのまま、横っとびに飛び出して、一生けん命に、にげていきました。

ほらあなの近くの、はんのきの下で、ふり返ってみましたが、兵十は追っかけてはきませんでした。

ごんは［B］、うなぎの頭をかみくだき、やっと外して、あなの外の草の葉の上にのせておきました。

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線「ちょいと、いたずらがしたくなったのです」とありますが、そのいたずらとは、どんなことでしたか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2)　(1)のときのごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　いたずらができてうれしく思っている。

イ　魚を助けるために、必死な気持ちになっている。

ウ　兵十がにくくてたまらない気持ちになっている。

エ　兵十に見つかるのをおそれている。

(3)　[　]Aにもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　グイッと　　**イ**　キュッと

ウ　するすると　　**エ**　ストンと

(4)　いたずらが見つかったときのごんの様子のよく分かる一文を、文章中からぬき出しましょう。

(5)　[　]Bにもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ほっとして

イ　かっとなって

ウ　しょんぼりして

エ　ゆかいになって

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講・確認テスト

次の中から類義語を選びなさい。

１　用心
ア　安心　　イ　注意
ウ　用意　　エ　準備

２　決心
ア　決意　　イ　対決
ウ　決行　　エ　解決

３　重要
ア　重点　　イ　必要
ウ　大切　　エ　大小

４　平等
ア　公平　　イ　平和
ウ　平成　　エ　水平

５　意外
ア　論外　　イ　以外
ウ　県外　　エ　案外

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講・ごんぎつね②

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

お昼がすぎると、ごんは、村の墓地（ぼち）へ行って、六じぞうさんのかげにかくれていました。いいお天気で、遠く向こうには、おしろの屋根がわらが光っています。墓地には、ひがんばなが、①赤いきれのように、さき続いていました。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そう式の出る合図です。

やがて、白い着物を着たそう列の者たちがやってくるのが、ちらちら見え始めました。話し声も近くなりました。そう列は墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ひがんばながふみ折られていました。

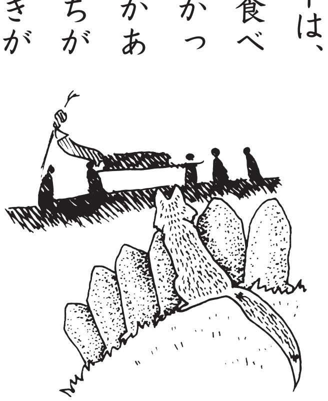
②ごんは、のび上がって見ました。兵十（ひょうじゅう）が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、［　　］さつまいもみたいな元気のいい顔が、今日は、何だかしおれていました。

「ははん。死んだのは兵十のおっかあだ。」

ごんは、そう思いながら、頭を引っこめました。

そのばん、ごんは、あなの中で考えました。

「兵十のおっかあは、③とこについていて、うなぎが食べたいと言ったにちがいない。それで、兵十が、はりきりあみを持ち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎを取ってきてしまった。だから、兵十は、おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎが



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

食べたい、うなぎが食べたいと思いながら、死んだんだろう。④ちょっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉

---

(1) ——線①「赤いきれのように」とありますが、何がどんな様子であることをたとえたものですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2) ——線②「ごんは、のび上がって見ました」とありますが、その理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　そう式の列に自分もくわわりたかったから。

イ　兵十の悲しむ顔がよく見たかったから。

ウ　だれのそう式なのか様子をよく知りたかったから。

エ　またちょっといたずらがしたくなったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　[　　]にもっともよくあてはまる色を表す言葉を、文章中からぬき出しましょう。

[　　　　]

(4)　――線③「とこについていて」のここでの意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　病気になってねていて

イ　つかれて早めにねてしまっていて

ウ　ぐっすりねむりこんでいて

エ　板の間にすわりこんでいて

[　　]

(5)　――線④「ちょっ、あんないたずらをしなけりゃよかった」から、ごんのどんな気持ちが分かりますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　もっと気楽にいたずらがしたいという気持ち。

イ　うらまれそうでいやだなあと思う気持ち。

ウ　悪いことをしたとこうかいする気持ち。

エ　兵十のおっかあが死んでつまらないと思う気持ち。

[　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

兵十が、赤いいどの所で、麦をといでいました。

兵十は今まで、おっかあと二人きりで、まずしいくらしをしていたもので、おっかあが死んでしまっては、もうひとりぼっちでした。

「①おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」

こちらの物置の後ろから見ていたごんは、そう思いました。

ごんは、物置のそばをはなれて、向こうへ行きかけますと、どこかでいわしを売る声がします。

「いわしの安売りだあい。生きのいい、いわしだあい。」

ごんは、その、いせいのいい声のする方へ走っていきました。と、弥助（やすけ）のおかみさんが、うら戸口から、

「いわしをおくれ。」

と言いました。いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちの中へ持って入りました。ごんは、②そのすき間に、かごの中から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げこんで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十が、まだ、□の所で麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、③いいことをしたと思いました。

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か」と思ったごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　おれもひとりだが、みんなそんなもんさ。

イ　おれみたいに、さみしいだろうな。

ウ　これからはもっといじめてやろう。

エ　いっしょに遊ぶなかまがふえてうれしいな。

(2)　――線②「そのすき間」とは、どんな間のことですか。文章中の言葉を使って、三十字以内(いない)で答えましょう。

(3)　□にもっともよくあてはまる言葉を、文章中から二字でぬき出しましょう。

(4)　――線③「いいことをした」とありますが、ごんは自分で何をしたと思っているのですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　兵十にいわしをプレゼントした。

イ　いわし売りからいわしをぬすんで、兵十にあげた。

ウ　いわしが売られて食べられないように、助けてあげた。

エ　いわし売りの手伝いをして、いわしを兵十の家にとどけた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講・確認テスト

次の中から対義語を選びなさい。

1　全体
ア　最小　　イ　部分
ウ　全部　　エ　全身

2　自然
ア　天然　　イ　都会
ウ　人工　　エ　人口

3　満足
ア　未満　　イ　不満
ウ　無満　　エ　非満

4　決定
ア　未定　　イ　不定
ウ　無定　　エ　非定

5　点火
ア　消火　　イ　無火
ウ　着火　　エ　火花

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講・ごんぎつね③、手紙の書き方

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

ごんは、お念仏（ねんぶつ）がすむまで、いどのそばにしゃがんでいました。兵十（ひょうじゅう）と加助（かすけ）は、またいっしょに、帰っていきます。ごんは、二人の話を聞こうと思って、ついていきました。兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。

おしろの前まで来たとき、加助が言いだしました。

「さっきの話は、きっと、そりゃあ、①神様のしわざだぞ。」

「えっ？」

と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれは、あれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない。神様だ。神様が、おまえがたった一人になったのを、あわれに思わっしゃって、いろんなものをめぐんでくださるんだよ。」

「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。

「おれが、くりや松たけを持っていってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは、引き合わないなあ。」

その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置でなわをなっていました。それで、②ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました。

そのとき、兵十は、ふと顔を上げました。と、き

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

つねがうちの中へ入ったではありませんか。こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来たな。

「③ようし。」

兵十は立ち上がって、なやにかけてある火なわじゅうを取って、火薬をつめました。

そして、足音をしのばせて近よって、今、戸口を出ようとするごんを、ドンと、うちました。ごんは、□とたおれました。兵十はかけよってきました。うちの中を見ると、④土間に、くりが固めて置いてあるのが目につきました。

「おや。」

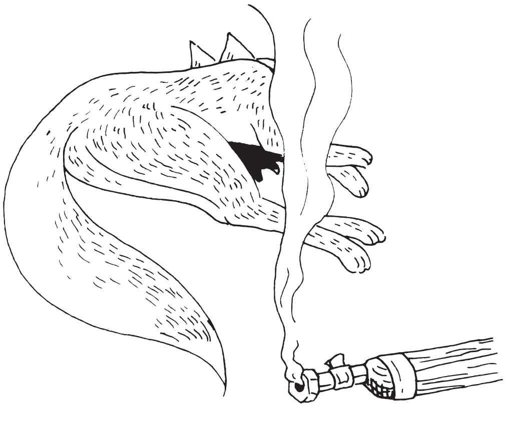
と、兵十は、びっくりして、ごんに目を落としました。

「ごん、おまえだったのか。いつも、くりをくれたのは。」

⑤ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

⑥兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落としました。青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。

〈新美南吉（にいみなんきち）「ごんぎつね」より〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 文章中で、場面が大きく変わるのはどこからですか。後半の初めの五字をぬき出しましょう。

(2) ——線①「神様のしわざだぞ」とありますが、加助が「神様のしわざ」と思ったのは、どのように考えたからですか。「〜と考えたから。」に続くように、三十字以内で答えましょう。

と考えたから。

(3) 兵十と加助の話を聞いたときのごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　もう二度と持っていってやるものかとおこっている。

イ　こんなつまらないことはもうやめようと反省している。

ウ　分かってもらえなくてもしかたがないとあきらめている。

エ　自分の行いを分かってもらえないのをさびしく思っている。

(4) ——線②「ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました」とありますが、兵十はそれを見てどう思いましたか。兵十の心の中の言葉を表している一文を、文章中からぬき出しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　――線③「ようし。」に続く言葉を、兵十の気持ちがよく分かるように、十字以内で考えて答えましょう。

(6)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ばたり　　**イ**　ぐったり

ウ　ゆったり　　**エ**　そろり

(7)　――線④「土間に、くりが固めて置いてあるのが目につきました」とありますが、このことから兵十はどんなことに気づいたのですか。

(8)　――線⑤「ごんは、ぐったりと目をつぶったま、うなずきました」とありますが、このときのごんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　何を今ごろ言っているんだ。にくらしい兵十め。

イ　人間にはやっぱり気持ちが通じなくて悲しい。

ウ　いろいろ持ってきてやったのになんてひどいんだ。

エ　やっとおれの気持ちを分かってもらえてよかった。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(9)　――線⑥「兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落としました」とありますが、このときの兵十の気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　なんということをしてしまったのだろうと、こうかいする気持ち。

イ　自分が何をしたのかよく分からず、とまどう気持ち。

ウ　ようやくごんをしとめることができて満足(まんぞく)する気持ち。

エ　こんなことをするつもりではなかったのにと悲しむ気持ち。

(10)　この文章で、兵十のごんに対する気持ちはどのように変化していますか。次の中からふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えましょう。

ア　ごんの気持ちを理解(りかい)している。

イ　ごんのことをにくんでいる。

ウ　ごんに親しみを持っている。

エ　ごんの行いを不思議に思っている。

オ　ごんに感謝(かんしゃ)している。

↓

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　手紙の書き方

◆手紙を書く目的をはっきりさせる◆

例　◎お願いの手紙（人に何かをお願いするときに書く手紙）

・お願いする内容（ないよう）・理由がはっきり分かるように書く。

◎お礼の手紙（人にお礼の気持ちを伝えるときに書く手紙）

・何に対するお礼なのかを、ていねいに書く。

◆手紙の書き方のきまり◆

手紙の書き方には一定の形式がある。手紙の内容を「前文」・「本文」・「末文」・「後づけ」の四つに分けて書く。

＊相手に対して、ていねいな言葉の使い方を心がける。

＊手紙を出す前に、内容や言葉づかい、文字にまちがいがないか、必ずかくにんする。

例　お願いの手紙

初めてお便りします。
わたしは○○小学校四年一組の田中ゆいといいます。
今日は、お願いがあってお手紙を書きました。

わたしたちは今、川のていぼうの歴史について学習しています。△△博物館にはそのしりょうがあると聞いたので、館長さんに、ぜひ一度クラスみんなでお話をうかがいたいと思っています。うかがう日時は、ご都合のよいときをお知らせいただければありがたいです。

おいそがしいとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

平成二十七年十月十一日
○○小学校　四年一組
田中ゆい

△△博物館　館長様

1 前文
書きだしのあいさつ
・自分をしょうかいする。

2 本文
中心になること
・お願いする内容と、お願いする理由を分かりやすく書く。

3 末文
結びのあいさつ
・お願いする気持ちが伝わるように書く。

4 後づけ
日づけ
自分の名前
相手の名前
の順に書く。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 手紙を書くときの注意点として正しくないものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 手紙の目的をはっきりさせて、形式を守って書く。

イ 手紙を出す前にまちがいはないか、かくにんする。

ウ 相手に対してていねいな言葉づかいで書く。

エ 自分が思っていることを思いつくまま書く。

□

(2) 手紙を書くときに気をつけるべきことは何ですか。ふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えましょう。

ア 前文・本文・末文・後づけと、手紙の形式で書く。

イ 前文・本文・末文を書けば、後づけは書かなくてもよい。

ウ 文章は、ていねいな言葉を使って書く。

エ 文章は、いつも話している言葉で書く。

オ 手紙の目的は、末文にていねいに書く。

カ 手紙の目的は、本文にはっきりと書く。

□

(3) 次の文は、目上の人に出すお願いの手紙の一部分です。しかし、言葉づかいに問題があります。相手に対して失礼のない言葉づかいになるよう、全文を書き直しましょう。

> 初めて手紙を書くよ。わたしは山田小学校四年三組の本田まゆみだよ。お願いがあって手紙を書いたよ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) 図書館の司書の人に、「〈きょうりゅう図かん(松原出版)〉という本をさがしてもらいたい」というお願いの手紙を書きます。手紙の本文を考えて書きましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講・確認テスト

次の中から対義語を選びなさい。

1　長所
ア　美点　イ　短所
ウ　急所　エ　観点

2　勝利
ア　敗北　イ　勝負
ウ　有利　エ　全敗

3　洋式
ア　正式　イ　公式
ウ　知識　エ　和式

4　賛成
ア　反対　イ　公正
ウ　不満　エ　成功

5　便利
ア　未便　イ　無便
ウ　不便　エ　非便

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講・つなぎことば

文と文をつなぐ言葉

◆二つの文をつなぐ言葉◆

「だから」「しかし」「それに」のような言葉を「文と文をつなぐ言葉」という。

これらの言葉は、前の文とあとの文をつなぐ働きをする。また、つないだ二つの文の関係をはっきりさせる働きを持つ。

例
①雨がふってきた。だから、かさを差した。
（前の部分が、あとの部分の理由や原いんをしめしている。）
②雨がふってきた。しかし、出かけていった。
（前の部分と反対の内容があとに続く。）
③雨がふってきた。それに、かみなりも鳴りだした。
（同じような内容をならべたり、つけ加えたりしている。）

「文と文をつなぐ言葉」は、このほかにも多くあるのでおぼえておこう。

例
①「だから」＝「よって」「そこで」
②「しかし」＝「けれども」「でも」
③「それに」＝「さらに」「しかも」

◆一つの文にしてつなぐ言葉◆

「だから」「しかし」「それに」の言葉を使って二つの文をつないだのと同じ内容を、「文と文をつなぐ言葉」を使って一つの文で言うこともできる。

この場合は、「…ので」「…が」「…し」という言葉を使う。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

例

［雨がふってきた。］だから、［かさを差した。］

①雨がふってきたので、かさを差した。
（前の部分が、あとの部分の理由や原いんをしめしている。）
↓
［雨がふってきた。］しかし、［出かけていった。］

②雨がふってきたが、出かけていった。
（前の部分と反対の内容があとに続く。）
↓
［雨がふってきた。］それに、［かみなりも鳴りだした。］

③雨がふってきたし、かみなりも鳴りだした。
（同じような内容をならべたり、つけ加えたりしている。）

一

(1) 次の［　］にあてはまるほうを、あとのア・イから選び、記号で答えましょう。

① 外は寒いのに、［　］。　［　］

② 外は寒いので、［　］。　［　］

ア　コートを着ない
イ　コートを着た

(2) 次の［　］にあてはまる言葉を、あとのア～エから選び、記号で答えましょう。

① せっかく来たのだ［　］、お茶でもどうぞ。　［　］

② ダンスをし［　］、歌ったりして楽しかった。　［　］

③ 新学期が始まっ［　］、がんばろう。　［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　毎日練習した[　]、なかなかうまくならない。

ア　けれど　イ　たら
ウ　から　エ　たり

二　次の[　]にあてはまる言葉を、あとのア～エから選び、記号で答えましょう。

①　雨はやんだ。[　]、道路はまだぬれている。

②　おなかがいたくなった。[　]、薬を飲んだ。

③　姉は水泳が得意だ。[　]、走るのも速い。

④　ジュースにしますか。[　]、お茶にしますか。

ア　だから　イ　それに
ウ　しかし　エ　それとも

三　次の――線の部分と同じつながり方の語が使われている文を、あとのア～エから選び、記号で答えましょう。

①　よく勉強したので、テストで百点をとった。

②　ずっと待っているが、だれも来ない。

③　ケーキも食べたし、ジュースも飲んだ。

④　バレーをしようか、それとも、サッカーをしようか。

ア　とてもつかれた。でも、がんばって歩こう。
イ　お天気がいい。それに、風もさわやかだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ウ　飛行機に乗った。だから、とても早く着いた。

エ　遊びに行くか。または、勉強するか。

四　次の文を二つの文にしたとき、——線の言葉と同じ意味を持つ言葉を、あとの**ア**～**エ**から選び、記号で答えましょう。

①　よく勉強したので、テストで百点をとった。

②　ケーキも食べたし、ジュースも飲んだ。

③　電話をかけたが、だれも出なかった。

ア　でも　　**イ**　それで

ウ　それとも　　**エ**　そして

五　次の文を、文と文をつなぐ言葉を使って二つの文にしましょう。

①　待ち合わせの時間がすぎたのに、まだ友達は来ない。

②　服そうは整えたし、かみもきれいにとかした。

③　今日は暑いから、アイスクリームを食べよう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

六　次の文を読んで、あとの問いに答えましょう。

①　寒い朝、毎日マラソンの練習をしたので、かぜをひかなくなった。

②　寒い朝、毎日マラソンの練習をしたから、かぜをひいてしまった。

③　寒い朝、毎日マラソンの練習をしたのに、大会で勝てなかった。

④　寒い朝、毎日マラソンの練習をしてから、学校に行った。

(1)　マラソンの練習をしたことをこうかいしているような内容(ないよう)の文を選び、記号で答えましょう。

(2)　マラソンの練習をしたことをよかったと感じているような内容の文を選び、記号で答えましょう。

(3)　③の「のに」と意味を変えずに言いかえることのできる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　けれど　　イ　し

ウ　ら　　エ　から

(4)　それぞれの文を二つに分けるときの文をつなぐ言葉として、もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。（二回以上使ってもかまいません。）

ア　だから　　イ　しかし

ウ　そして　　エ　それに

①

②

③

④

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講・確認テスト

次のことばを漢字に直したものとして、正しいものを選びなさい。

１　自分のシメイを書く。

ア　指名　イ　使命
ウ　氏名　エ　死命

２　先生からシメイされる。

ア　指名　イ　使命
ウ　氏名　エ　死命

３　妹を守ることがぼくのシメイだ。

ア　指名　イ　使命
ウ　氏名　エ　死命

４　親孝行（こうこう）な少年にカンシンする。

ア　関心　イ　歓心
ウ　寒心　エ　感心

５　植物にカンシンを持つ。

ア　関心　イ　歓心
ウ　寒心　エ　感心

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講・くらしの中の和と洋

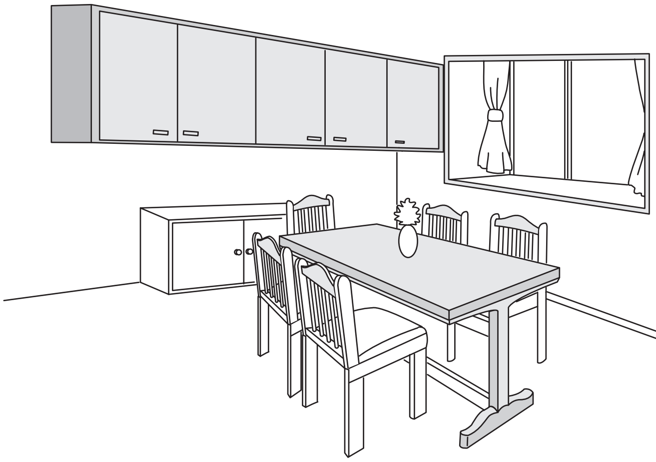
一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

日本では、くらしの基本（きほん）である「①衣食住」のどれにも、②「和」と「洋」が入りまじっています。「衣」には和服と洋服があり、「食」には和食と洋食があり、「住」には和室と洋室があります。「和」は、伝統的（でんとうてき）な日本の文化にもとづくもので、「洋」は、主として欧米（おうべい）の文化から取り入れたものを指します。

ここでは、「衣食住」の中の「住」を取り上げ、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれの良さがどのように生かされているか、考えてみましょう。

和室と洋室の最も大きなちがいは、ゆかの仕上げ方とそこに置かれる家具だといってよいでしょう。和室は、ゆかにたたみをしいて仕上げ、あまり家具を置かないようにします。③一方、ほとんどの洋室は、板をはったり、カーペットをしいたりしてゆかを仕上げ、いすやテーブル、ベッドなど、部屋の目的に合わせた家具を置きます。④このちがいが、それぞれの部屋の中でのすごし方や、部屋の使い方の差を生み出すと考えられます。

〈教科書書きおろしによる〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「衣食住」とありますが、「衣」「食」「住」に当たるものを次の中からそれぞれ二つずつ選び、記号で答えましょう。

ア　ベッド　イ　ウエディングドレス
ウ　着物　エ　みそしるとご飯
オ　たたみ　カ　ハムエッグ

衣

食

住

(2) ――線②「『和』と『洋』」とありますが、「和」と「洋」は、それぞれどんなものを指しますか。文章中からぬき出しましょう。

和

洋

(3) ――線③「一方」は、どんな働きをしていますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　前の文を否定(ひてい)してのべる。
イ　前の文につけ足してのべる。
ウ　前の文とくらべてのべる。

(4) ――線④「このちがい」とは、何のちがいですか。次の□にあてはまる言葉を文章中からぬき出しましょう。

和室と洋室の□□□□□□

□□□□□□と□□

□□□のちがい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

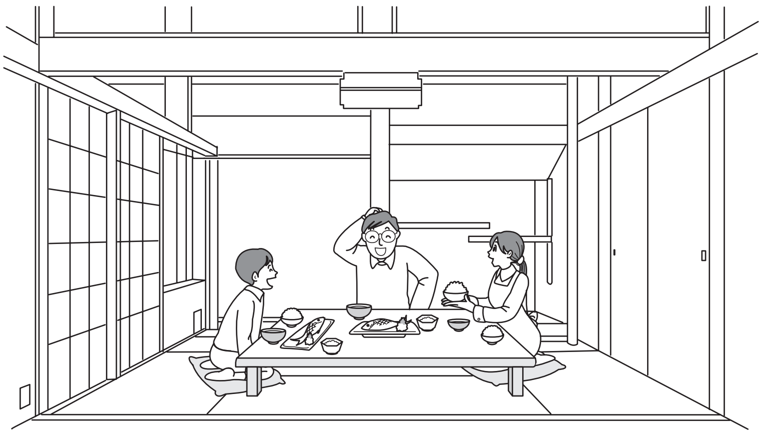
次に、部屋の使い方という点から、それぞれにどんな良さがあるか考えてみましょう。

　初めてたずねた家の部屋であっても、それが洋室であれば、何に使う部屋かということはだいたい見当がつきます。それは、そこに置いてある家具で分かるのです。それぞれの部屋の家具は、その部屋をより使いやすくするために置かれます。例えば、食事をする、勉強をする、ねるといった目的に合わせて、テーブルやいす、勉強づくえ、ベッドが置かれます。洋室は、その部屋で何をするかがはっきりしていて、そのために使いやすくつくられているのです。

　これに対して、和室は、一つの部屋をいろいろな目的に使うことができるという良さがあります。例えば、家にお客さんがやってきて、食事をし、とまっていくことになったという場合を考えてみましょう。洋室だけしかないとすると、少なくとも食事をする部屋、とまってもらう部屋が必要になります。しかし、和室が一部屋あれば、そこでざぶとんをしいて話をし、ざたくに料理をならべて食事をし、かたづけてふとんをしくことができます。

　このように見てくると、和室と洋室には、それぞれ良さがあることが分かります。わたしたちは、その両方の良さを取り入れてくらしているのです。

〈教科書書きおろしによる〉



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　使い方の点での洋室の良さは、どんなことですか。

(2)　洋室を使う目的の例として挙げられていることを文章中から三つぬき出しましょう。また、その目的のために置かれている家具をそれぞれぬき出しましょう。

①　目的

家具

②　目的

家具

③　目的

家具

(3)　使い方の点での和室の良さは、どんなことですか。

(4)　――線「家にお客さんが…考えてみましょう」の後で、(3)の和室の良さを、具体的に説明している一文を文章中からぬき出し、初めの六字を答えましょう。（、も一字に数えます。）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5) 洋室と和室の使い方の例としてふさわしいものを次の中から全て選び、それぞれ記号で答えましょう。

ア　お客さんをむかえて話をする部屋は、ねる部屋にも使える。

イ　お客さんをむかえて話をする部屋は、ねる部屋には使えない。

ウ　食事をする部屋とねる部屋を、かねることができる。

エ　食事をする部屋とねる部屋は、かねることができない。

洋室［　　　］　和室［　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講・確認テスト

次の言葉の意味を後から選びなさい。

1　足が出る

ア　足が長い
イ　お金が多い
ウ　お金が足りなくなる
エ　ける

2　手を抜く

ア　いいかげんにする
イ　そでが短い
ウ　たたく
エ　なかよくする

3　鼻にかける

ア　びっくりする　　イ　安心する
ウ　じまんする　　エ　不安になる

4　手があく

ア　かばんが空になる
イ　あきる
ウ　家を留守にする
エ　ひまになる

5　顔が広い

ア　顔が大きい　　イ　知り合いが多い
ウ　家が広い　　エ　庭が広い

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講・同音異義語、熟語の組み立て

同じ読み方の漢字

漢字は、それぞれが決まった意味を持っているので、読み方が同じでも意味や使い方がちがう場合がある。文章の中では、漢字の意味をおぼえて適切な漢字を選ぶことが必要である。

◆訓読みが同じで、意味や使い方がちがうもの◆

文の意味を考えて書き分ける。

・友（とも）＝友達の「友（とも）」だから→「友」

例　友と力を合わせる。

・共（とも）＝「いっしょに」の意味だから→「共」

例　共に力を合わせる。

訓読みは、送りがなをともなう場合が多い。

送りがなが必要な言葉は、漢字と送りがなを合わせておぼえる。

・暑い（あつ―い）＝気温などが「あつい」のだから→「暑い」

例　今年の夏は暑い。

・熱い（あつ―い）＝湯などが「あつい」のだから→「熱い」

例　このお湯は熱い。

◆音読みが同じで、意味や使い方がちがうもの◆

熟語で、漢字一字だけがちがう。

・人工（ジンコウ）　意味＝人間が作った。

例　海上に人工の島をつくる。

・人口（ジンコウ）　意味＝人間の数。

例　日本の人口を調べる。

熟語で、漢字が二字ともちがう場合もある。

・市場（シジョウ）意味＝商品が売買される場所。

例　新しい市場を開たくする。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

・紙上（シジョウ）　意味＝新聞などの紙面。
例　新聞の紙上をにぎわす。
＊文章の中で漢字を使って書くと、文の意味が分かりやすくなる。
例　あなたの文章には感心した。
　＝「すばらしいと思っている」
例　あなたの文章には関心がある。
　＝「興味（きょうみ）がある」

一　□にあてはまる漢字を書きましょう。

(1)
① □□（きかい）を使って自動車を作る。
② □□（きかい）体そうの選手（せんしゅ）になりたい。

(2)
① わたしのチームに、強力な□□（みかた）があらわれる。
② 今までと□□（みかた）を変えて考えてみる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

——線の言葉を、漢字と送りがなで書きましょう。

(1) はなす
① 父が大声で□。
② にぎった手を□。

(2) きる
① はさみで画用紙を□。
② 新しい洋服を□。

三

同じ読み方の漢字を書きましょう。

(1)
① 大きなねこがねずみを□（お）う。
② 委員長としての大きな責任（せきにん）を□（お）う。

(2)
① 海水から真水を作る□□（き・かい）を開発する。
② 自分の実力をためす□□（き・かい）を得（え）る。

(3)
① じぶん□□（じ・しん）の問題としてとらえる。
② 今までの練習に□□（じ・しん）を持って試合（しあい）にのぞむ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四　次の読み方の漢字を書きましょう。

(1)
① 道具を［なお］す。
② 病気を［なお］す。

(2)
① 絵に［かんしん］をもつ。
② 姉の絵に［かんしん］する。

(3)
① 赤［いがい］の色を使ってぬる。
② ［いがい］なできごとにおどろく。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

熟語の組み立て

◆熟語◆
「上下」のように、二つ以上(いじょう)の漢字を組み合わせてできた言葉を、「熟語」という。

◆熟語の意味◆
熟語には、「竹林」＝「竹の林」のように、漢字の訓で読むと意味のわかるものがある。

例　海水　＝海の水
新年　＝新しい年
流星　＝流れる星
国立　＝国が立てる
改良(かいりょう)　＝改(あらた)めて良(よ)くする

◆熟語の組み立て◆
熟語の漢字の組み合わせには、いくつかの種類(しゅるい)がある。

①　反対の意味の漢字を組み合わせたもの。
例　高低(こうてい)（「高い」と「低(ひく)い」）

②　似(に)た意味の漢字を組み合わせたもの。
例　行進（「行く」と「進む」）

③　上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの。
例　急用（「急な」と「用」）

④　「〜を」「〜に」に当たる漢字が下にくるもの。
例　救命(きゅうめい)（「命を」と「救(すく)う」）

⑤　意味を打ち消す漢字が上につくもの。
例　無色(むしょく)（「色が」と「無(な)い」）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一　次の熟語の組み立てとしてふさわしいものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 決心　□　　(2) 救助　□

(3) 前後　□　　(4) 少数　□

ア　反対の意味の漢字を組み合わせたもの。

イ　似た意味の漢字を組み合わせたもの。

ウ　上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの。

エ　「〜を」「〜に」に当たる漢字が下にくるもの。

二　次の組み合わせの熟語になるように、□にあてはまる漢字をそれぞれあとから選び、書きなさい。

(1) 反対の意味の漢字を組み合わせたもの。

①　明□　　②　□弱

(2) 似た意味の漢字を組み合わせたもの。

①　道□　　②　生□

強　産（さん）　暗　路

三　次の――線の部分を漢字に直して、熟語を作りなさい。

例　くるまにのる　乗車

(1) やまにのぼる　□□

(2) ひをけす　□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四　次の組み立てになっている熟語をそれぞれあとから二つずつ選び、書きなさい。

(1) 反対の意味の漢字を組み合わせたもの。

(2) 似た意味の漢字を組み合わせたもの。

(3) 上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの。

(4) 「〜を」「〜に」に当たる漢字が下にくるもの。

読書　左右　着陸（ちゃくりく）　寒冷（かんれい）
絵画　海底（かいてい）　出欠（しゅっけつ）　曲線

五　次の組み合わせの熟語になるように、□にあてはまる漢字をそれぞれあとから選び、書きなさい。

(1) 反対の意味の漢字を組み合わせたもの。
①　天□　②　□負

(2) 似た意味の漢字を組み合わせたもの。
①　森□　②　出□

勝　林　地　発

六　次の――線の部分を漢字に直して、熟語を作りなさい。

例　くるまにのる　乗車

(1) くににかえる

(2) みせをひらく

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

七

次の組み立てになっている熟語をそれぞれあとから二つずつ選び、書きなさい。

(1) 反対の意味の漢字を組み合わせたもの。

(2) 似た意味の漢字を組み合わせたもの。

(3) 上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの。

(4) 「～を」「～に」に当たる漢字が下にくるもの。

親友　鉄板　着席（ちゃくせき）　平等
軽重　連続（れんぞく）　遠近　発熱（はつねつ）

八

次の熟語の組み立てとしてふさわしいものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 衣服（いふく）
(2) 作曲
(3) 売買
(4) 親友
(5) 不運（ふうん）

ア　反対の意味の漢字を組み合わせたもの。
イ　似た意味の漢字を組み合わせたもの。
ウ　上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの。
エ　「～を」「～に」に当たる漢字が下にくるもの。
オ　意味を打ち消す漢字が上につくもの

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講・確認（かくにん）テスト

次の文の主語を選びなさい。

1　この　ア庭は　イとても　ウよく　エ手入れされている。

2　アたくさんの　イ生徒が　ウ校庭で　エ遊んでいる。

3　アいちばん　イはしの　ウ大きな　エ本が　落ちた。

4　ア彼（かれ）の　イ転校を　ウ知らなかったのか、　エ君も。

5　アきっと　イ妹の　ウ友だちが　エ遊びに来た。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講・世界一美しいぼくの村①

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

アジアの真ん中にアフガニスタンという国があります。めったに雨がふらないので、かわいた土とすなばかりの国のように思われています。でも、万年雪をかぶった高い山が連なり、森や見わたすかぎりの大草原もあって、春になれば花がさきみだれ、夏になれば、果物がゆたかに実る美しい自然がいっぱいの国です。

小さな男の子、ヤモの住むパグマンの村でも、毎年、村人たちは家族そろって、あんずや、すももや、さくらんぼをもぎ取ります。①とり入れは一年中でいちばん楽しいときです。

「あんず、なったか、すもも、なったか。真っ赤な頭のさくらんぼ。取ったか、食べたか、食べずに死んだか……。」

ヤモも、兄さんのハルーンと競争でかごいっぱいのすももやさくらんぼを取ります。村中があまいかおりに包まれます。

でも、②今年の夏、兄さんはいません。兵隊になって、戦いに行ったのです。アフガニスタンでは、もう何年も、民族どうしの戦争が続いています。戦争は国中に広がり、わか者は次々と戦いに出かけていきました。

あまいすももと真っ赤なさくらんぼが、ろばのポンパーのせなかで重そうにゆれています。今日、ヤモは初めてポンパーと、町へ③果物を売りに行くことになりました。兄さんの代わりに、父さんの手伝いをするのです。

〈小林豊「世界一美しいぼくの村」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ヤモの住むアフガニスタンは、どのような国ですか。次の［　］にあてはまるように、文章中の言葉を使って答えましょう。

雨は［　　　　］が、［　　　　］がいっぱいある国。

(2) ――線①「とり入れは一年中でいちばん楽しいときです」とありますが、なぜだと思われますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア とり入れたたくさんの果物を町に売りに行くと、お金がもうかるから。

イ とり入れの大変さや果物がなった喜び（よろこ）を、家族そろって味わうことができるから。

ウ とり入れのときばかりは、戦争が続いていても、家族がそろうことができるから。

［　　］

(3) ――線②「今年の夏、兄さんはいません」とありますが、なぜですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

［　　　　　　　　］

(4) ――線③「果物」とありますが、具体的にはどんな果物を売りに行くのですか。文章中から十六字でぬき出し、初めと終わりの四字を答えましょう。

［　　　　］～［　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

人の行きかう大きな広場で、いよいよ店開きです。

「父さんはこの広場ですももを売るから、ヤモは、町の中を回ってさくらんぼを売ってごらん。」

「①ぼく、一人で？」

「ポンパーがついているさ。ポンパーは、町中知らない所はないんだから。」

しかたなくヤモは、ポンパーに引っぱられるようにして屋根つきバザールに行きました。色とりどりの小さな店が、所せましとならんでいます。買い物をする人。お茶を飲む人。

（こんな所で売れるかな？）

ヤモは、心配になりました。勇気を出してよんでみました。

「さくらんぼ！　パグマンのさくらんぼ！」

でも、だれもふり向いてくれません。ヤモは、□、道ばたにすわりこみました。すると、小さな女の子がやってきて、

「パグマンのさくらんぼ、ちょうだい！」

と言いました。ヤモはうれしくなって、うんとおまけをしてやりました。

「ぼうや、わたしにもおくれ。」

女の子の後ろから、②足のない人が言いました。

「昔、パグマンの近くで果物を作ってたんだ。なつかしいな。」

ヤモは、びっくりしてたずねました。

「おじさんは、戦争に行ってたの？」

「ああ、そうだよ。おかげで足をなくしてしまってね。」

③ヤモは、どきっとしました。ハルーン兄さんの顔が思いうかびました。

〈小林豊（こばやしゆたか）「世界一美しいぼくの村」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ぼく、一人で？」と言ったときのヤモの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　一人でさくらんぼを売ることができるなんて、うれしいなあ。

イ　一人でさくらんぼを売るなんて、どうってことないさ。

ウ　初めてなのに、一人でさくらんぼを売るなんて心細いなあ。

(2)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　がっかりして　　イ　うっとりして

ウ　うっかりして　　エ　かっとなって

(3)　――線②「足のない人」について、次の問いに答えましょう。

①　この人はなぜ足がないのですか。

②　この人は、なぜヤモのさくらんぼを買ってくれたのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) ――線③「ヤモは、どきっとしました」とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 兄さんも戦争でがんばっているんだと、急に思い出したから。

イ 戦争に行っている兄さんは無事なんだろうかと思ったから。

ウ 兄さんに早く帰ってきてほしいと、こいしくなったから。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講●確認テスト

次の文の述語（じゅつご）を選びなさい。

1　ア けいさつかんが　イ ふたり　ウ 部屋に　エ 入った。

2　ア 赤い　イ 色の　ウ かばんは　いすの　したに　エ ある。

3　ア 髪（かみ）の　イ 長い　ウ 女の人は　ともだちの　エ お母さんだ。

4　ア 終わってしまった、　イ 楽しみに　ウ していた　エ 夏休みが。

5　ア あの　イ 白い家には　ウ たくさん　鳥が　エ やってくる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講・世界一美しいぼくの村②

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

「いやあ、このヤモのおかげですよ。何しろ、上のむすこが戦争（せんそう）に行ってましてね。」

「それは、心配ですな。南の方の戦（たたか）いは、かなりひどいというし。」

「来年の春には帰ると言ってたんですがね。」

ヤモはお茶を飲みながら、父さんたちの話を聞いていました。ハルーン兄さんならだいじょうぶ、きっと春には元気に帰ってくると、①ヤモは信じていました。でも、②何だかむねがいっぱいになってきました。

そんなヤモを見て、父さんが言いました。

「③後でびっくりすることがあるよ。」

「え？　何、何。教えて。」

「さあ、その前にもうひと仕事。残（のこ）りのすももを売ってしまわなくちゃ。」

ヤモは、最後（さいご）に残ったさくらんぼを大切に食べると、おじさんにさよならを言って、チャイハナを出ました。

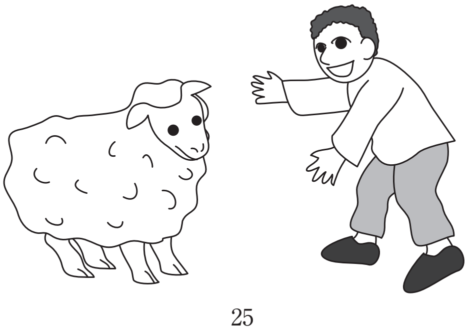
広場のモスクから、おいのりの声が流れてきます。ヤモは、すももを売りながら、ずっと父さんの言ったことを考えていました。

ようやく、すももも全部売れました。

「さて、それじゃあ、びっくりする所に行くとするか。」

父さんは、まっすぐ広場を横切っていきます。

そこは羊の市場でした。父



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さんは、もうけたお金を全部使って、真っ白な子羊を一頭買いました。ヤモのうちの初めての羊。こんなきれいな羊は、村のだれも持っていません。

「さあポンパー、家へ帰ろう。羊を見たら、きっとみんなおどろくよ。」

ヤモは、大喜（よろこ）びで村へもどってきました。たった一日いなかっただけなのに、とてもなつかしいにおいがします。

「パグマンはいいな。④世界一美しいぼくの村。」

ヤモは、そっとつぶやきました。

〈小林豊（こばやしゆたか）「世界一美しいぼくの村」より〉

---

(1) ——線①「ヤモは信じています」とありますが、ヤモは何を信じているのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2) ——線②「何だかむねがいっぱいになってきました」とありますが、このときのヤモの気持ちとしてふさわしいものを次の中から三つ選び、記号で答えましょう。

ア　心配　　**イ**　感動　　**ウ**　さびしさ

エ　楽しみ　　**オ**　悲しみ　　**カ**　喜び

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　――線③「後でびっくりすることがあるよ」について答えましょう。

①　この言葉をお父さんが言ったときの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ヤモをおどろかせたい。

イ　ヤモを元気づけたい。

ウ　ヤモをこまらせたい。

□

②　「びっくりすること」とは、何だったのですか。

□

(4)　――線④「世界一美しいぼくの村」と、ヤモはどういう意味をこめて言っているのですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　すももやさくらんぼなどがたわわに実る、ゆたかな自然（しぜん）に包（つつ）まれた村。

イ　たくさんの家族にかこまれて幸せに生きられる、心の中だけに残っている村。

ウ　ゆたかで美しい自然と、家族や村人の愛（あい）にみちた心のやすらぎの村。

□

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

サーカスが次の町に着いたとき、ミラドーは団長(だんちょう)さんに、①長い間考えていたことを話しました。

「ぼく、パグマンに帰ります。」

「そうか、そうするか。」

団長さんはうなずいて、だまって海を見つめました。

その夜、サーカスのみんながミラドーのお別(わか)れパーティを開いてくれました。団長さんは自分のマフラーを、ミラドーの首にまいてくれました。ミラドーは、自分の荷物の中に、町で買ってきた作物の種(たね)をいっぱいつめました。

そして、とうとう音が出なくなってしまったお父さんの笛を大切にしまいました。

次の日の朝早く、ミラドーは東へ向かう列車に乗りこみました。かたにかけた②黒いかばんの中には、ヤモへのおみやげがつまっています。ヤモに会うときのことを思うと、心がうきうきしました。

列車からバスに乗りついで、小さな町に着きました。バスもこの町で終点です。ここから先は歩くしかありません。

村をすぎ、森をぬけ、おかをこえて歩きました。ミラドーは、雨がふり、風がふいても、歩き続(つづ)けました。ヤモのことを思うと、③自然に足が前に出ます。平原の真ん中にある町を通り、山へ向かう道を進みます。ミラドーは、ひたすら歩き続けました。

そんなミラドーを見て、牛の世話をしている女の子がしぼりたてのミルクをくれました。羊かいの少年は、

「この先はあぶないよ。兵隊(へいたい)や山(さん)ぞくがいるし、暗くなるとオオカミも出るよ。気をつけてね。」

と言って、ミラドーに自分のつえをくれました。

日がくれると、辺(あた)りは急に寒くなります。ミラドーはつかれて、心細くなってきました。おなかもぺこぺこです。遠くにたき火の明かりが見えました。

「こわい人たちだったら、どうしよう。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ミラドーは、おそるおそるたき火に近づきました。すると、

「寒かっただろう。さあ、火に当たりなさい。」

「おなかがすいているでしょう。パンとスープがありますよ。」

男の人と女の人が、あたたかく声をかけてくれました。ミラドーはほっと安心して、④急に力がぬけました。

「おじさんたちはどこへ行くの。」

「わたしたちはこれから自分の村へ帰るんだよ。戦争で、何もかもなくしてしまったからね。畑を作って、また、一からやり直しさ。」

男の人はそう答えると、月に向かって笛をふき始めました。その音色（ねいろ）は、遠くの山にこだましていきました。

よく朝、男の人はミラドーの手に自分の笛をにぎらせて、言いました。

「気をつけて行くんだよ。わたしは今、君に何もしてあげることができない。せめて、⑤この笛をあげよう。」

その笛は、お父さんの笛と同じにおいがしました。

ミラドーはまた歩き始めました。この山をこえれば、パグマンの村まではあと少しです。

〈小林豊（こばやしゆたか）「世界一美しい村へ帰る」より〉

(1)　――線①「長い間考えていたこと」とありますが、だれがどんなことを考えていたのですか。

［　　　　］が、［　　　　］こと。

(2)　団長さんは、旅立つミラドーに何をしてくれましたか。

［　　　　］を［　　　　］くれた。

(3)　――線②「黒いかばん」には、何が入っているのですか。あてはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア　作物の種
イ　お父さんの笛
ウ　ヤモへのおみやげ

［　　］

(4)　ミラドーは、ヤモに会うときを想像(そうぞう)すると、どんな気持ちになったのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

［　　　　］

(5)　村をすぎ、森をぬけ、おかをこえて歩くミラドーが、どんなじょうきょうでも歩き続けている様子が分かる一文を、文章中からぬき出しましょう。

［　　　　］

(6)　――線③「自然に足が前に出ます」とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　風におされているから。
イ　早く安全な所に着きたいから。
ウ　早くヤモに会いたいから。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(7)　歩き続けるミラドーに、「牛の世話をしている女の子」と「羊かいの少年」は何をくれましたか。それぞれ答えましょう。

「牛の世話をしている女の子」

「羊かいの少年」

(8)　――線④「急に力がぬけました」とありますが、なぜ力がぬけたのですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　おなかがすいていて、やっとご飯にありつけると思ったから。

イ　こわい人たちではなく、やさしい人たちで安心したから。

ウ　もう歩き続けなくてもいいんだと思ったから。

(9)　――線⑤「この笛をあげよう」と言って男の人がくれた笛は、ミラドーにとってどんなものでしたか。

もの

(10)　このお話では、歩き続けるミラドーに、多くの人々がいろいろなものをくれています。かれらは、それらにどんな気持ちをこめていると思いますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　自分にはできないことだからがんばってほしい。

イ　無事にパグマンの村へたどり着いてほしい。

ウ　早くパグマンの村へ行ってしまってほしい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講・確認テスト

次の文の二重傍線部が修飾している箇所を選びなさい。

1　君の　ア ランドセルは　イ どこに　ウ 忘れて　エ きたのですか。

2　その　ア 大きな　イ 箱には　ウ 何が　エ 入っているの？

3　黒の　ア 大きな　イ ぼうしが　ウ 風で　エ とばされてしまった。

4　交差点で　ア トラックと　イ 青い　ウ 自転車が　エ 止まっている。

5　ぼくの　ア ゆめは　イ 宇宙飛行士になって　ウ 宇宙へ　エ 行くことだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講・短歌、俳句（はいく）

短歌

短歌は、千三百年以上も昔から作られてきたものである。**五・七・五・七・七の三十一音**からなり、自然（しぜん）の風景（ふうけい）や思いを、短い言葉の中にうたっている。

◆短歌の形式◆

「五・七・五・七・七」の三十一音からなっている。初（はじ）めの「五・七・五」を上（かみ）の句（く）、後の「七・七」を下（しも）の句という。

（上の句）			（下の句）	
五	七	五	七	七
金色（こんじき）の	小さき鳥の	形して	いちょうちるなり	夕日の丘に
初句	二句	三句	四句	結句

・字余（あま）り　音数が三十一音より多いこと。

・字足らず　音数が三十一音より少ないこと。

◆小倉（おぐら）百人一首◆

「百人一首」の中で最もよく知られているものが「小倉百人一首」である。これは藤原定家（ふじわらのていか）という人物が、百人の歌人の歌を一首ずつ選んで集めた歌集である。藤原定家は、平安（へいあん）時代末期から鎌倉（かまくら）時代にかけて活やくした人物で、当時もっともすぐれた歌人の一人としても有名である。

この歌集は定家の好みで集められた歌集であるが、後の人々から愛されて、今では古典（こてん）の入門書としても読まれている。

「小倉百人一首」には、春夏秋冬の自然や恋（こい）などを歌った短歌が集められている。

君がため春の野に出（い）でて若菜（わかな）つむわが衣手（ころもで）に雪はふりつつ　光孝天皇（こうこうてんのう）

人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香（か）ににほ（お）ひ（い）ける　紀貫之（きのつらゆき）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

みなさんは、「百人一首」を知っていますか。「百人一首」は、昔の有名な短歌を百首集めたもので、今でも、かるたの形で多くの人々に親しまれています。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で表される短い詩です。千年以上前に日本で生まれました。昔の人は、季節(きせつ)や自然、人生、人を思う心などを短歌によみ、おたがいに伝え合っていました。声に出して読んでみましょう。

嵐(あらし)吹(ふ)く三室(みむろ)の山のもみぢ(じ)葉は
龍田(たつた)の川の錦(にしき)なりけり
能因法師(のういんほうし)

五　七　五
あらしふく　みむろのやまの　もみじばは
七　七
たったのかわの　にしきなりけり

あらしがふきおろす三室山のもみじの葉は、まるで龍田川の錦織物(にしきおりもの)のようだなあ。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　「百人一首」とは、何ですか。文章中から十五字でぬき出しましょう。

(2)　短歌は、いくつの音でできている詩ですか。次の□にあてはまる数を漢数字で書きましょう。

□音

(3)　短歌は、いつごろ、どこで生まれた詩ですか。

いつごろ

どこで

(4)　昔の人は、何を短歌によみ、たがいに伝え合っていたのですか。文章中からぬき出しましょう。

(5)　――線「嵐吹く…なりけり」を今の言葉に直すと、どのようになりますか。あてはまる文を文章中からぬき出し、初めと終わりの四字を答えましょう。（。は一字に数えません。）

～

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の短歌と文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

Ａ　東(ひんがし)の野にかぎろいの立つ見えて
　　かえり見すれば月かたぶきぬ
　　　　　　　　　　　　　柿本人麻呂(かきのもとのひとまろ)

「かぎろい」とは、日が上る直前にさす、ほのかに赤い光です。「かたぶきぬ」は、「かたむいていた」という意味です。広い野原に立って東の方を見ると、明け方の光が見えてきました。ふり返ると、月は西にかたむいていたのです。

短歌は五・七・五・七・七の三十一音からできています。自然の風景や心に感じたことを、ひびきのよい言葉やリズムでうたいあげています。みなさんも、何度も声に出して読んでみましょう。五音と七音のくり返しのリズムを楽しみながら、何度も声に出して読んでみましょう。

Ｂ　秋来(き)ぬと目にはさやかに見えねども
　　風の音にぞおどろかれぬる
　　　　　　　　　　　　　藤原敏行(ふじわらのとしゆき)

秋の初めのころには、まだ木々の緑も青々としています。「秋が来た。」と目にははっきりと見えません。けれど、聞こえてくる風の音で、はっと秋が来たことに気づいたのです。

〈文章は教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) Ａ・Ｂの短歌を、例にならって五・七・五・七・七のリズムに分けましょう。

〈例〉 見わたせば／花ももみじも／……

Ａ 東の野にかぎろいの立つ見えてかえり見すれば月かたぶきぬ

Ｂ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

(2) Ａの短歌で、作者はどちらの方向を見ていますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 初めは西の空を見ていたが、とちゅうから東の空を見ている。

イ 初めは東の空を見ていたが、とちゅうから西の空を見ている。

ウ 初めから終わりまで、南の空を見ている。

□

(3) ――線「さやかに」とありますが、どんな意味ですか。文章中からぬき出しましょう。

□

(4) Ｂの短歌で、作者は何によって秋が来たことに気づきましたか。短歌の中からぬき出しましょう。

□

(5) 次の言葉は、Ａ・Ｂのどちらの短歌にふさわしい言葉ですか。あてはまるものを選び、記号で答えましょう。

・広々とした夜明けの感じ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

俳句

五・七・五の十七音という短い言葉で表現（ひょうげん）する俳句には、かならず季節を表す言葉（季語）が入っている。その季節によく見られる植物や動物、天気や行事などが季語になっている。

春　さくら、梅（うめ）、種（たね）まき、田植え、かえる、すずめ、春雨（はるさめ）など

夏　せみ、金魚、ほたる、はえ、すいか、梅雨（つゆ）、入道雲、夕立ち、短夜など

秋　とんぼ、すず虫、朝顔、落ち葉、もみじ、さんま、いねかり、台風など

冬　雪、北風、こがらし、かれ木、つる、うさぎ、きつね、年末（ねんまつ）、正月など

一　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　五月雨（さみだれ）を　あつめてはやし　最上川（もがみがわ）　　松尾芭蕉（まつおばしょう）

B　さじなめて　童（わらべ）たのしも　夏氷（なつごおり）　　山口誓子（やまぐちせいし）

C　やせがえる　負けるな一茶（いっさ）　これにあり　　小林一茶（こばやしいっさ）

D　赤とんぼ　筑波（つくば）に雲も　なかりけり　　正岡子規（まさおかしき）

(1)　A～Dの句で、季節を表す言葉をそれぞれぬき出しなさい。

A ［　　］　B ［　　］

C ［　　］　D ［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の短歌・俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　朝顔に　つるべとられて　もらい水　加賀千代(かがのちよ)

B　かき食えば　かねが鳴るなり　法隆寺(ほうりゅうじ)　正岡子規(まさおかしき)

C　しずかさや　岩にしみいる　せみの声　松尾芭蕉(まつおばしょう)

D　しづかなる　力満(み)ちゆき　※はたはたとぶ　加藤楸邨(かとうしゅうそん)

(注)はたはた＝ここでは、ショウリョウバッタのこと。

E　菜(な)の花や　月は東に　日は西に　与謝蕪村(よさぶそん)

F　こがらしや　海に夕日を　ふき落(お)とす　夏目漱石(なつめそうせき)

G　やれ打つな　はえが手をする　足をする　小林一茶(こばやしいっさ)

H　金色(こんじき)の　小さき鳥の　かたちして　いちょう散(ち)るなり　夕日のおかに　与謝野晶子(よさのあきこ)

I　君がため　春の野に出(い)でて　若菜(わかな)つむ　わが衣手(ころもで)に　雪はふりつつ　光孝天皇

J　しもやけの　小さき手して　みかんむく　わが子しのばゆ　風の寒きに　落合直文(おちあいなおぶみ)

K　ふるさとの　なまりなつかし　停車場(ていしゃば)の　人ごみの中に　そをききに行く　石川啄木(いしかわたくぼく)

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　A・D・F・Gの俳句から、季節を表す言葉をぬき出しなさい。

A
D
F
G

(2)　Bの俳句は、どのような意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　法隆寺ではかきを食べるのを合図に、かねが打たれる。

イ　かねを打ちながら食べるかきが一番おいしい。

ウ　かきを食べていると、寺のかねの音が聞こえてきた。

エ　法隆寺でかきを食べていると、かねが鳴って帰る時間になった。

(3)　Cの俳句の意味を説明(せつめい)した次の文の□A・Bにあてはまる言葉を俳句の中からぬき出しなさい。

Aの中、鳴き始めたBの声がまわりにひびいているよ。

A
B

(4)　Eの俳句は、どの時間帯によまれた句ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　太陽がのぼりはじめる朝。

イ　菜の花がきれいに見える昼間。

ウ　太陽がしずんで月が見え始める夕方。

エ　月の光が菜の花をてらす夜。

(5)　H〜Jの短歌がよまれた季節を答えなさい。

H
I
J

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　Hの短歌で「小さき鳥」とありますが、何がそのように見えるのですか。考えて答えなさい。

(7)　Iの短歌は、どのような意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　まだ雪がふる冬に、君と野原で若菜をつんでいたなあ。

イ　春の野原で君にあげる若菜をつむわたしのそでに、雪がふりかかってくるよ。

ウ　雪のふる中、君と若菜をつんでいるうちに春が来たようだ。

エ　君がいなくなって、泣(な)いているわたしのそではなみだでぬれているよ。

(8)　Kの短歌はどのような意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ふるさとの方言がなつかしくて、駅に聞きに行った。

イ　ふるさとの方言を聞いて、帰りたくなり駅に来てしまった。

ウ　駅にいたら、なつかしいふるさとの方言が聞こえてきた。

エ　駅で同じふるさとの人の方言を聞いて、はずかしくなった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　たわむれに　母を背負(せお)いて　そのあまり
　軽(かろ)きに泣きて　三歩あゆまず
　　　　　　　　　　　　　　　石川啄木

B　奥山(おくやま)に　もみじふみ分け　鳴くしかの
　声聞くときぞ　秋は悲しき
　　　　　　　　　　　　　　　猿丸大夫(さるまるだゆう)

C　人はいさ　心も知らず　ふるさとは
　花ぞむかしの　香(か)に匂(にお(い))ひける
　　　　　　　　　　　　　　　紀貫之

(1) Aの歌によまれている気持ちとしてふさわしくないものを、あとから選び、記号で答えなさい。

ア 心苦しさ　**イ** 悲しみ
ウ 感謝(かんしゃ)　**エ** いかり

□

(2) Bの歌の意味を説明した次の文の□①・②にあてはまる言葉を、それぞれ歌の中からぬき出しなさい。

深い山の奥で、もみじをふみ分けながら鳴いている□①の声を聞くと、□②はしみじみとさびしいものだと感じられるなあ。

①□　②□

(3) Cの歌の意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ふるさとのみんなといっしょに花の香(かお)りを楽しみたいなあ。
イ あの人はわたしのふるさとの花の香りを知らないのだなあ。
ウ 花の香りがふるさとを思い出させることだなあ。
エ 人の心はわからないが、ふるさとの花の香りだけはかわらずに匂っているよ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講●確認テスト

次の文の組み立てを選びなさい。

１　花が　さく。
ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

２　ぼくは　四年生だ。
ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

３　犬が　いる。
ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

４　世界は　広い。
ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

５　雨が　ふる。
ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講・ゆめのロボットを作る

一題目　次のインタビュー記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

——　今、いろいろなロボットが作られていますが、まず、ロボットって何なのかについて教えてください。

小林　いろいろな考え方があって、①ロボットとは何か、という問いに対する答えは一つではないと思います。「こんなロボットがあればいいな。」と、ゆめ見る人の数だけ種類があるといえるかもしれません。「ロボット」という言葉を辞書で引くと、「人造人間」とか「人の役に立つ機械」という説明がのっていますね。アニメや映画に登場する、②人間ににた形をしていて、自分で考えて動くロボットは、「人造人間」といえるでしょう。しかし、こうしたロボットは、空想のもので、実際にはまだ作られていません。③現実にあるロボットは、形や働きもさまざまですが、「人の役に立つ機械」だということはいえると思います。

——　今、小林さんが研究されているのはどんなロボットですか。

小林　人間の動きを手助けするロボットです。その中でも、人間が身に着けて使う、「④着るロボット」についての研究を進めています。

——　なぜ、「着るロボット」を作ろうと思われたのですか。

小林　わたしは、ふだんの生活に役立つということをとても大切に考えています。初めからこんなロボットを作ろうと考えたというより、少しでも多くの人の役に立つ機械を作りたいと思って研究した結果が「着るロボット」だったのです。

〈インタビュー記事　ロボット研究者・小林宏さ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

んに聞く「わたしの『ゆめのロボット』」より〉

(1)　——線①「ロボットとは何か」の答えとして、小林さんは、まずどのように答えていますか。次の文の□にあてはまる言葉をそれぞれ文章中からぬき出しましょう。

いろいろな［　　　　］があって、
答えは［　　　　］ではない。

(2)　——線②「人間ににた形をしていて、自分で考えて動くロボット」のことを、別の言葉で何と言っていますか。文章中から四字でぬき出しましょう。

［　　　　］

(3)　——線③「現実にあるロボット」とは、どんなものだといえると言っていますか。文章中から八字でぬき出しましょう。

［　　　　　　　　］

(4)　小林さんが研究しているロボットは、どのようなロボットですか。「〜ロボット。」に続くように文章中から十一字でぬき出しましょう。

［　　　　　　　　　　　］ロボット。

(5)　——線④「着るロボット」とは、どんなロボットですか。

［　　　　　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線④「着るロボット」を作ろうと思ったのはなぜですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

「マッスルスーツ」は、①人工筋肉（きんにく）の力を借りて、重いものを持ち上げる働きをするロボットです。自分の力だけで持ち上げるときにくらべて、最大で三十キログラムの力を加えることができます。人工筋肉は、ゴムのチューブに空気を送ることによって、強い力でちぢむ仕組みになっています。着る人の体に合わせやすく、自由に動かせるように作りました。また、動かす力として、モーターではなく空気を使っているので、②水にぬれてもだいじょうぶです。

「マッスルスーツ」は、どのように活用できるのかを説明しましょう。工場や倉庫（そうこ）で働く人の作業を助けることはもちろん、病気やけがで体を動かせなくなった人の機能（きのう）を回復（かいふく）させる手助けもできます。それだけでなく、お年寄り（としより）を介護（かいご）する施設（しせつ）で働く人たちが、入浴などのお世話をするときに身に着けるという使い方もあります。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

介護する人が楽に作業できるようにすることも大切ですが、そのことで、介護される人が少なくなるわけではありません。わたしは、この「マッスルスーツ」をより使いやすく改良することによって、ねたきりのお年寄りなど動けない人が、自分で動けるようになるための手助けができないかと考えています。それができれば、ねたきりの人が少なくなり、それによって介護する側の人たちのふたんもさらに小さくすることができるでしょう。

〈小林宏（ひろし）「『着るロボット』をつくる」より〉

---

(1) 「マッスルスーツ」とは、どんなものですか。文章中からぬき出しましょう。

(2) 「マッスルスーツ」を使うと、どんなことができるのですか。文章中から一文でぬき出し、その初めの四字を書きましょう。

(3) ――線①「人工筋肉」について答えましょう。

㋐ どのような仕組みになっているのですか。文章中からぬき出し、初めの四字を書きましょう。

㋑　――線②「水にぬれてもだいじょうぶ」なのは、なぜですか。文章中からぬき出し、初めと終わりの四字を書きましょう。

□□□□～□□□□

(4)「マッスルスーツ」は、どのように活用できるのですか。文章中からぬき出し、初めと終わりの四字を書きましょう。

□□□□～□□□□

□□□□～□□□□

□□□□～□□□□

(5)　筆者は、介護の現場で、「マッスルスーツ」をより使いやすく改良して、どんなことができるようにしたいと考えていますか。

(6)　(5)ができるようになると、どんなよいことがあると筆者は考えていますか。文章中の言葉を使って二つ答えましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講・確認テスト

次の文の組み立てを選びなさい。

１　家族の　みんなが　大声で　話している。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

２　お父さんの　話は　とても　長い。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

３　ぼくの　兄は　今年　大学生だ。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

４　見たい　映画（えいが）が　たくさん　ある。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

５　妹は　怒（おこ）られると　すぐに　泣く。

ア　何が（は）どうする
イ　何が（は）どんなだ
ウ　何が（は）なんだ
エ　何が（は）ある（いる、ない）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講・木竜(もくりゅう)うるし①

言葉の広場

◆きゃく本で使われる用語◆

「きゃく本」とは、げきで使われる文章を指し、次のような部分から成り立っている。

①せりふ

登場人物が話す言葉。きゃく本の本体といえる部分。

②ト書き(とがき)

ある場面の時や場所、登場人物の動作や表情(ひょうじょう)や心の内などを説明する部分。

役をえんじる人は、せりふとト書きを読んで、話し方や動作などをくふうする。

一　題目

次のきゃく本を読んで、あとの問いに答えましょう。

権八(ごんぱち)　あのばか正直といっしょに仕事をすると、たいていのことはあれがやるで大きに楽だ。あっはっは。

①藤六(とうろく)がうかび上がる。

藤六　（首だけ出して）ご、権八よ。

権八　なんだなんだ。

藤六　②（手のひらにすくったものを見せて）見や、こ、これ。

権八　なんだ？　……ほう、こらおめえ、うるしでないか。

藤六　そ、そうだ。う、うるしだ。

権八　どこにあった？　こんなもんが。

藤六　い、いっぱい、一面、こ、このふちの底に。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

権八　③ふちの底に？　うるしがか？

藤六　うん。こらほんに上等の上うるしだ。

権八　うん。上うるしだ。たいしたもんだ。……ふうん、こら、大昔から山々のうるしの木のしるが、雨に流されてたまったもんにちがいないわ。

藤六　それにちがいないわ。

権八　（しばらく考えているが、とっぜんどなる。）④やい藤六。

藤六　へっ？

権八　おめえ、このうるしのこと、だれにも告げっちゃならんぞ。

藤六　……。

権八　告げたらおめえ、どえらい［　　］にあわすぞ。

藤六　へ、へい。

権八　このうるしのことを知っとるもんは、近郷近在（きんごうきんざい）、おらとおめえの二人きりだ。ええかこら。

藤六　へ、へい。い、言わん。だれにも言わん。

権八　よし。さあ、そんならはよう木を切らんか。

藤六　あっ、のこぎり。（ブクブクブクブク。）

権八　（ふちをのぞきこんで大笑い。）あっはっは。このばかが、うるしにびっくりしてのこぎりをわすれてきよった。……ううん、けど、こらあ大金もうけだ。ただ⑤藤六のやつがじゃまもんだな。あいつさえ来なんだら、このふちの底のうるしは、おらがそっくりひとりじめだ。うん、藤六が決して取りに来んようにせにゃ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ならん。こいつは家に帰って⑥ひと思案だ。（考えながら行ってしまう。）

藤六がうかび上がる。

藤六　権八よ。のこぎり、やっとあったぞい。さあ、おらがうんと切ってやるぞい。おい、権八よ。権八よ。

ピーチクピーチク。

〈木下順二（きのしたじゅんじ）「木竜うるし」より〉

---

(1)　――線①について、次の問いに答えましょう。

(あ)　きゃく本で、――線①のように、場面や人物の動作などをしめしたものを何といいますか。

(い)　(あ)に対して、人物の言葉を会話の形で表したものを何といいますか。

(2)　――線②「手のひらにすくったもの」は、何だったのですか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　――線③「ふちの底に？」のあとに言葉をおぎなうとしたら、どんな言葉がよいですか。ひらがな五字で答えましょう。

(4)　権八は、うるしがどうしてたまったと考えましたか。それが分かる部分を権八の言葉の中からはじめと終わりの四字をぬき出しましょう。

～

(5)　藤六は言葉につまりながら話していますが、それはなぜですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　権八にしかられてばかりいるので、こわくてたまらないから。

イ　あまりにもたくさんのうるしを見つけて、おどろいているから。

ウ　藤六には分からないことだらけで、不安でいっぱいだから。

エ　だれにも話してはいけないと思って、うろたえているから。

(6)　――線④「やい藤六」は、どんな感じで音読するとよいですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　間（ま）を取ってから、やさしい声で話しかけるように読む。

イ　全く間を取らずに、すぐに大きな声でどなるように読む。

ウ　少し間を取ってから、大きな声でどなるように読む。

エ　少し間を取ってから、小さな声でさそうように読む。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(7) □にあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 手　イ 目
ウ 気　エ ロ

□

(8) ――線⑤「藤六のやつがじゃまもんだな」とありますが、権八にとって、なぜ藤六はじゃまなのですか。その理由を権八の言葉を使って答えましょう。

□

(9) ――線⑥「ひと思案」とありますが、何を思案するのですか。権八の言葉を使って答えましょう。

□

(10) 権八は、どんな人物だと考えられますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 気が小さい人物。
イ よくが深い人物。
ウ すぐおこる人物。
エ のんびりとした人物。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講・確認(かくにん)テスト

次の各組から熟語(じゅくご)の組み立てが他と違(ちが)うものを選びなさい。

1
ア　開会　イ　帰国
ウ　山々　エ　出席

2
ア　明暗　イ　青空
ウ　必要　エ　熱湯

3
ア　通行　イ　岩石
ウ　道路　エ　前後

4
ア　乗車　イ　不正
ウ　無常(むじょう)　エ　非力(ひりき)

5
ア　男女　イ　国立
ウ　多少　エ　昼夜

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講 ・ 木竜（もくりゅう）うるし ②

一題目 次のきゃく本を読んで、あとの問いに答えましょう。

三　ふちのそば

権八（ごんぱち）がふちをのぞきこんでいる。

権八　今に見とれ、藤六（とうろく）のやつ、①びっくりぎょうてん、飛んで出るぞ。おらがうるしを取ってこいちゅうたら、ばか正直め、さっそくもぐっていきよった。一ぺんあの竜をおがませとけばもう［ A ］、二度ともぐる心配はない。そこでおら様が②ひとりじめだ。あっはっは。

スポンと藤六が水の中から飛び上がる。

藤六　だ、大（だい）じゃだあ。大じゃがおったあ。ふちの底に大じゃがねとったあ。（飛んでにげていってしまう。）

権八　あっはっは。あっはっは。おうい藤六よ、大じゃではない、竜だぞよ。大じゃよりもおそろしい竜だぞよう。あっはっは。どうれ、それではおら様が③仕事にかかるか。……はて、④ぶるぶるふるえてきたぞ。あんまりの大金もうけだで武者（むしゃ）ぶるいが出たか。ええい、権八、しっかりやれ。（ドブン。ブクブクブクブク。）

しばらくそのまま。

ピーチクピーチク。

藤六がおそるおそるもどってくる。

藤六　（こわごわふちをのぞきこんで）はて権八はどうしたかいな。おらあんまりこわさににげ出したが、権八一人残しといては気の毒だ。何も知らんでもぐったんではあるまいかな。おうい、権八よう。

スポンと権八が飛び上がる。

藤六　わっ。（びっくりして大木のかげに転げこむ。）

権八　た、た、たいへんだ。りゅ、竜が生きとった

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あ。大きな口を開けておらをにらんだあ。こ、こらどうしたこっちゃ。わあい。

藤六　（大木からそうっと顔を出す。）権八よ。ご、権八よ。

権八　やっ、藤六。た、たいへんだ。

藤六　⑤おったろが？

権八　⑥おったあ。不思議（ふしぎ）だあ。

藤六　ど、どうする。む、村中に知らせるか？

権八　不思議だあ。あの竜が、おらをにらんでわあんと口を……。

藤六　わあい。（こしをぬかす。）

権八　わあい。（こしをぬかす。）

二人、しばらくそのまま。

ピーチクピーチク。

権八　（やがて）不思議だ。どう考えてもおら不思議だ。

藤六　昨日おらが入ったときにゃ、たしかに何もおらなんだがなあ。

二人、頭をそろえておそるおそるふちをのぞきこむ。

ピーチクピーチク。

権八　（やがて）藤六よ。

藤六　ん？

権八　あらなあ、あの竜はなあ、実はおらが作った木の竜だ。

藤六　なんだ、木の竜？

権八　そうだ。木竜だ。おらな、おら、⑦実は……。まあなんだ、おらとおめえと二人ぎりであのうるしを取ろうと思うて、あの竜を作って番人にしといただ。

藤六　作りもんか？　あらあ。なら初めからそう言えばええに。

権八　いやそれがよ、今おらがもぐっていったら、おらをにらんで……。

藤六　そんでもおめえ、木でほった竜が動くわけはないでないか。

権八　だからよ、動くわけのないもんが動いたから不思議だちゅうだ。

〈木下順二（きのしたじゅんじ）「木竜うるし」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「びっくりぎょうてん、飛んで出るぞ」とありますが、だれがどこから飛んで出ると思っているのですか。

だれが［　　］　どこから［　　］

(2) ［　］Aにもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 心配　**イ** びっくり

ウ 安心　**エ** 気の毒（どく）

［　］

(3) ――線②「ひとりじめ」とありますが、だれが何をひとりじめするのですか。

だれが［　　］　何を［　　］

(4) ――線③「仕事にかかるか」とありますが、権八が、何をすることですか。

［　　］

(5) ――線④「ぶるぶるふるえてきた」のようになった理由を、権八はどのように考えましたか。権八の言葉の中から一文でぬき出しましょう。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線⑤・⑥に始まる二人の会話は、話が合っているようにみえますが、二人が不思議に思っていることがちがっています。それぞれ、どのようなことを不思議に思っているのか考えて書きましょう。

藤六

権八

---

(7)　――線⑦「実は……まあなんだ」から、権八のどんな気持ちが分かりますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　本心では悪いと思っているが、すなおにあやまりにくい。

イ　本心を言うのがはずかしくてしかたがない。

ウ　本心をかくして、なんとかごまかしたい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次のきゃく本を読んで、あとの問いに答えましょう。

四　ふちの底

さっきのとおり、竜がいる。

藤六が権八を引っぱって上からもぐってくる。

権八　わあっ、①ほれ、動いた。

藤六　なんの、あら水の加減（かげん）でゆらゆら見えるだ。ほれ。（竜の所へ来て頭をたたいてみせる。）ほれ、まちがいなしの木の竜だ。

権八　（遠くから）そうか？　……②わっ、おらをにらんだ。

藤六　水の加減だちゅうに。（目をなでる。）

権八　だいじょうぶか？　おい。

藤六　だいじょうぶだ。さわってみい。（権八の手を引っぱってさわらせる。）

権八　な、なるほど。うん、うんうん。こらやっぱり木の竜だ。木竜だ。

藤六　だろが？　けど、さっきはおらもおったまげたぞ。

権八　おらのほうがよっぽどおったまげたただ。ふうん、やっぱり木竜かあ。（全身をなで回す。——はなれてみて）なあるほど、水がゆれるとゆらゆらっと見えるわ。ああ安心した。……さっきはほんまに生きとると思うたが……やっぱり悪いことをしとると、気のせいでいろんなふうに見えるもんだ。

藤六　安心したろが？　さあ行こう。

権八　けど、安心してみると、やっぱり③うるしが気にかかるわ。藤六よ、④こらどうするだ？

藤六　そうだなあ。村中みんなで取りに来るか。

権八　どうだ藤六、おらと二人で山分けせんか。

藤六　おら、こんなたくさん、こ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まるわ。それより、村のもん、連れてこう。

権八　……。

藤六　おら、ばあさまと二人ぎりだで、今のままのきこりだけでけっこうおまんま食えるだでな。

権八　……。

藤六　けど、おらどうでもええ。おめえがほしけりゃ、一人で取るさ。なら、おら帰るでよ。

権八　（考えていたが）藤六よ。

藤六　ん？

権八　おめえは気立てのええやつだなあ。

藤六　なんでや？

権八　（考えて）よし、村のもんを連れてこう。

藤六　⑤<u>そうか。喜ぶぞう、みんな。</u>

権八　⑥<u>うん、一人残らず連れてこう。</u>

藤六　ようし、おらがふれて回ってやるわ。

権八　たのむでよ。ところで藤六、この木竜はどうしようかな？

藤六　そうだなあ。

権八　そうだなあ。……うん、こらこのまま置いといて、一ぺんだけ村のもんをおどかしてやろう。おらたちだけがおったまげたでは引き合わんわ。

〈木下順二（きのしたじゅんじ）「木竜うるし」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ほれ、動いた」、②「わっ、おらをにらんだ」と権八は言っていますが、それは何のせいだと、藤六は言っていますか。文章中から二十字でぬき出しましょう。

(2)　――線①、②のように思った理由を、権八はどのように考えましたか。権八の言葉の中からぬき出しましょう。

(3)　――線③「うるしが気にかかる」とありますが、それはどういう意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　うるしを藤六に取られてしまうのではないか。
イ　うるしを集められなくなるのではないか。
ウ　うるしがいったいだれのものになるのか。
エ　うるしが流れていってしまうのではないか。

(4)　――線④「こらどうするだ」とたずねた権八に対して、藤六はまずどんな提案(ていあん)をしましたか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5) (4)の藤六の返事に対する権八について答えましょう。

㋐ 権八は、藤六にどんな提案をしましたか。

㋑ ㋐の提案をしたときの権八の気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア これからも、藤六と仲良くしたい。

イ できれば、自分のもうけを多くしたい。

ウ 全部自分のものにしたい。

エ 村の人からよく思われたい。

(6) このうるしのやりとりから、権八は、藤六をどんな人間だと感じましたか。権八の言葉の中から八字でぬき出しましょう。

---

(7) ──線⑤・⑥は、どんな感じで音読するとよいですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 藤六はふつうに話す感じで、権八は元気よく読む。

イ 藤六はうれしそうに、権八はめんどうな感じで読む。

ウ 二人とも、とても元気に明るく読む。

エ 二人とも、しかたがなさそうに読む。

(8) このきゃく本の場面では、とちゅうで権八の気持ちが大きく変化しています。それはなぜですか。その理由を三十字以内で考えて答えましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講・確認テスト

次の二重傍線部が修飾している言葉を選びなさい。

1　妹は（ア）　〔ほめられると〕　顔を（イ）　赤くして（ウ）　喜ぶ（エ）。

2　〔その〕　君が（ア）　読んでいた（イ）　本は（ウ）　とても　おもしろかったね（エ）。

3　〔毛の〕　黒い（ア）　犬が（イ）　おいしそうに（ウ）　ごはんを　食べた（エ）。

4　ぼくは　〔少ない〕　おこづかいを（ア）　使って（イ）　母に（ウ）　プレゼントを（エ）　買った。

5　〔私の〕　一番の（ア）　友だちは（イ）　となりの（ウ）　席の（エ）　まもるくんだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講・文の組み立て（主語、述語、修飾語）

文の組み立て

◆文を組み立てる言葉の種類◆

文は、大きく分けて【主語】と【述語】から成り立っている。

【主語】

「だれが（は）」・「何が（は）」に当たる言葉。

【述語】

「どうする」・「どんなだ」・「何だ」に当たる言葉。

主語	述語（文末）
～は	どうする
～が	どんなだ
～も	何だ

例

兄が　行く。　「だれが」＋「どうする」

花が　きれいだ。　「何が」＋「どんなだ」

父は　会社員だ。　「だれは」＋「何だ」

一　次の文から主語をぬき出しなさい。

(1) ぼくは　友達（ともだち）と　サッカーを　する。

(2) 校庭に　雪が　真っ白に　積（つ）もった。

二　次の文から述語をぬき出しなさい。

(1) ぼくが　わらう。

(2) わたしは　ジュースを　飲む。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　次の文から主語と述語をぬき出しなさい。

(1) 赤ちゃんが　大きな　声で　元気よく　泣(な)く。

主語 [　　　]
述語 [　　　]

(2) 給食(きゅうしょく)の　時間に、　中山(なかやま)さんが、　クラスの　みんなに　牛乳(ぎゅうにゅう)を　配った。

主語 [　　　]
述語 [　　　]

(3) 春に　さく　チューリップが、　花の　中では　いちばん　美しい。

主語 [　　　]
述語 [　　　]

四　次の文から主語と述語をぬき出しなさい。

(1) 自転車が　強い　風で　たおれる。

主語 [　　　]
述語 [　　　]

(2) ブタの　かんばんが　お肉屋さんに　ぴったりだ。

主語 [　　　]
述語 [　　　]

(3) この　スーパーマーケットは、　どの　売り場も、　店員さんが　親切だ。

主語 [　　　]
述語 [　　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五　次の文から主語をぬき出しなさい。主語が省略（しょうりゃく）されている場合は×と答えなさい。

(1) おいしそうな　あんパンを、森田（もりた）さんはひとりで　三つも　食べた。

(2) 駅まで　いっしょうけんめいに　走ったけれども、わたしは、電車に　乗りおくれた。

(3) 夜おそくまで　起きて　いたから、母に、「もう、ねなさい。」と　しかられた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【修飾語】

「どんな」・「どのように」のように、文の中でほかの言葉をくわしく説明（せつめい）する働きを持つ。

例　赤い　花が　さく。

花が　きれいに　さく。

ほかにも、「いつ」・「何を」・「何の」・「何で」などに当たる言葉も修飾語である。

①　花が　さいた。
（何が）（どうした）

②　赤い　花が　さいた。
（どんな）（何が）（どうした）

③　赤い　花が　きれいに　さいた。
（どんな）（何が）（どのように）（どうした）

④　赤い　花が　公園に　きれいに　さいた。
（どんな）（何が）（どこに）（どのように）（どうした）

⑤　きのう　赤い　花が　公園に　きれいに　さいた。
（いつ）（どんな）（何が）（どこに）（どのように）（どうした）

一　次の文の、全ての修飾語に、――線を引きましょう。

①　リスが、おいしそうに　木の実を　食べた。

②　きのう、ぼくは　ていねいに　手紙を　書いた。

③　おこった　兄は、だまって　ぼくを　見つめた。

二　次の――線の言葉をくわしくしている修飾語を、全てぬき出しましょう。

①　大つぶの　雨が（ア）　たたきつけるように　ふった（イ）。

ア ［　　　　］

イ ［　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

②　白い　犬が（ア）　うれしそうに　あぜ道を　走った（イ）。

ア

イ

三　次の文の、①修飾語はどれですか。また、②その修飾語がくわしく説明している言葉はどれですか。それぞれぬき出しなさい。

(1)　わたしは　ぐっすりと　ねむった。

①

②

(2)　きびしい　父が　おこった。

①

②

四　次の文の中から、修飾語を見つけて、すべて答えましょう。

①　大きな　こいが　堂々と　泳ぐ。

②　弟は　三角形の　紙を　そっと　出した。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五 次の――線の言葉をくわしくしている修飾語を、全てぬき出しましょう。

① 駅前に　開店した　店は　とても　人気がある。

[ ]

② 小さな　女の子は　うれしそうに　にっこり笑った。

[ ]

③ リスは　あわてて　赤い　木の実を　食べた。

[ ]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講・確認テスト

次の二重傍線部が修飾している言葉を選びなさい。

1　ぼくには　アかわいい　イ妹が　ウふたり　エいる。

2　クラスの　アみんなが　イ協力して　ウ運動会を　エ盛り上げた。

3　赤い　アりんごが　イ大きな　ウ木に　エなっている。

4　ぼくが　弟を　ア毎朝　イ起こす　ウ役目を　エ引き受けた。

5　私は　自転車を　アこいで　イおおあわてで　ウ待ち合わせ場所に　エ行った。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答編

小学４年　国語〔基礎〕

第一講　キャプテンがんばる①（物語文）

一題目

(1) ウ
(2) 四（名）
(3) 一（名）
(4) エ

二題目

(1) みんなは、すんなり吉野くんをむかえいれてくれた。
(2) ウ
(3) すてぜりふ
(4)（例）きつい練習を一日も休まず、みんながチームワークをかためたから。

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ア　３　エ　４　エ　５　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　キャプテンがんばる②（物語文）

一題目

(1) ぼくのへや
(2) イ
(3) 一週間・二学期
(4) ア

二題目

(1) 対戦相手
(2) ウ
(3) Ⓐ（例）じょうだんみたいな、かるい言葉だと思った。
　Ⓑア

〈確認テストの解答〉

１　ア　２　イ　３　ア　４　エ　５　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　いのちをはぐくむ農と食①（説明文）

一題目

(1) かつお節（でとった）おいしい出汁
(2) イ・ウ（順不同）
(3) かつお節
(4) 画一化

〈確認テストの解答〉

１ ウ　２ エ　３ ア　４ イ　５ ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　いのちをはぐくむ農と食②（説明文）

一題目

(1)（例）みんなが同じ味で画一化されてしまうことで、最大公約数的な人間しかできないこと。
(2) グルタミン酸ナトリウム
(3) 人間がつくりだした新しい調味料
(4) ア

二題目

(1) ア
(2) 民族本来の味
(3) エ
(4) 民族文化

〈確認テストの解答〉

1　ア　2　イ　3　イ　4　エ　5　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　ぼくらのサイテーの夏（物語文）

一題目

(1) ウ
(2) あにきとぼ
(3) ベランダから～いったこと。
(4) (例)どこへ行ったか(ということまで。)
(5) イ
(6) ウ
(7) やつらをけちょんけちょんにやっつけようか・くだらない・がまん

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 ウ　3 イ　4 ウ　5 ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　詩

一題目

(1) はい上がり・かぼちゃのつる
(2) ウ
(3) ああ　今
　空をつかもうとしている
(4) イ

二題目

(1) 四(つ)
(2) ウ
(3) 元日・うまれかわった
(4) ひとつでいいから　よいことときめよう
　それをかならず　やりとげようよ

三題目

(1) 秋・冬
(2) 赤・白・青
(3) ゴマをまいたように飛ぶ。
(4) ア

〈確認テストの解答〉
１　イ　２　ウ　３　ウ　４　ウ　５　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　漢字（音読み、訓読み、漢字辞典）

一　漢字の音と訓

1
(1) 音…カイ　訓…うみ
(2) 音…ソウ　訓…くさ
(3) 音…キュウ　訓…やす(む)
(4) 音…バイ　訓…う(る)

2
(1) 近
(2) 時
(3) 同
(4) 遊

3
(1) あた―り
(2) かたち
(3) たたか―う

4
(1) ×
(2) △
(3) ○
(4) ×
(5) △
(6) ○

5
(1) ア
(2) ア
(3) イ
(4) イ
(5) イ
(6) ア

6
(1) イ
(2) イ
(3) ア
(4) イ
(5) ア
(6) ア

二　漢字辞典（漢和辞典）の使い方

1
A…ウ
B…オ
C…ク
D…ア
E…ケ

2
(1) 馬・うまへん
(2) 八(画)
(3) 音読み

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) ①総画
②十八

3
エ

〈確認テストの解答〉
１　イ　２　ア　３　イ　４　エ　５　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　ことわざ、故事成語

一　ことわざ

1
(1) イ
(2) エ
(3) ア
(4) カ
(5) オ
(6) ウ

2
(1) 千
(2) 七
(3) 三
(4) 十
(5) 犬
(6) 地
(7) 身
(8) 旅

3
(1) イ
(2) エ
(3) ア
(4) ウ
(5) オ

4
(1) イ

二　慣用句

(2) ウ
(3) イ
(4) ウ

三　故事成語

1
(1) エ
(2) ウ
(3) イ
(4) ア

2
(1) イ
(2) ア
(3) ウ
(4) エ

〈確認テストの解答〉

1　イ
2　ウ
3　ア
4　ウ
5　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　広告と説明書の読み比べ、わたしの考えたこと

一題目

(1)お店で見た～があること(がいがある)
(2)キャッチコピー
　写真や絵の使い方
　色やレイアウト
(3)(例)多くの人の目にとまるようにするため。
(4)ア
(5)「広告」
　商品を売(広告は、)～うとする(もの。)
　「取りあつかい説明書」
　商品を買(取りあつ)～説明した(もの。)
(6)イ

二題目

(1)１・５
(2)①２
　②イ
(3)３イ
　４ア
(4)ウ

三題目

・あなたの考え
(例)紙ナプキンを使わずに、もっとハンカチを活用する。
・考えるきっかけとなった出来事
(例)お店などのトイレに入って手をあらったあと、つい紙ナプキンを使ってすててしまう。

〈確認テストの解答〉

１　ア　２　ウ　３　イ　４　イ　５　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　セロ弾きのゴーシュ

一題目

(1) からだをまげて
(2) イ
(3) すこしちがう
(4) エ

二題目

(1) 初め……なんだ
終わり…るかな
(2) イ
(3) ア
(4) ウ

〈確認テストの解答〉

1 ア　2 ウ　3 イ　4 ウ　5 エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　色さいとくらし

一題目

(1)(さまざまな)色さい
(2)楽しい気持ち・落ち着いた気持ち(順不同)
(3)・(物を)目立たせる
・(区別を)しやすくする
・(印象を)変える
(4)(例)見る人を強くしげきし、真っ先に人の目につく色だから。
(5)・どんな感じ
明るく、広がっていくような感じ
・用いられているもの
子どもたちの通学用のぼうしやかさ

二題目

(1)昔からの伝統的な町なみの色づかい
(2)(木や土、石など、)自然の素材による色
(3)草木の ~ 白い雪
(4)自然のおりなす色さいの調和
(5)イ

〈確認テストの解答〉
1　イ　2　ア　3　ウ　4　ア　5　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　ごんぎつね①

一題目

(1) しだのいっぱいしげった森の中
(2) イ
(3) たり
(4) ウ
(5) ほっとして

二題目

(1) (例)びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中に投げこんだこと。
(2) ア
(3) イ
(4) ごんは、びっくりして、飛び上がりました。
(5) ア

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 ア　3 ウ　4 ア　5 エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　ごんぎつね②

一題目

(1)（例）赤いひがんばなが一面にさいている様子。
(2) ウ
(3) 赤い
(4) ア
(5) ウ

二題目

(1) イ
(2)（例）いわし売りが、いわしを弥助（やすけ）のうちの中へ持って入っている間。
(3) いど
(4) ア

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ウ　３　イ　４　ア　５　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　ごんぎつね③、手紙の書き方

一題目

(1) その明くる
(2) (例)たった一人になった兵十(ひょうじゅう)を、神様があわれに思っている(と考えたから。)
(3) エ
(4) こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来たな。
(5) (例)うちころしてやるぞ。
(6) ア
(7) (例)いつもくりを持ってきてくれたのが、ごんだったこと。
(8) エ
(9) ア
(10) イ→ア

二題目

(1) エ
(2) ア・ウ・カ
(3) (例)初めてお便りします。わたしは山田小学校四年三組の本田まゆみといいます。お願いがあってお手紙を書きました。
(4) (例)わたしは今、「きょうりゅう図かん(松原出版(しゅっぱん))」という本をさがしています。そちらの図書館においてありますでしょうか。ありましたらぜひおかりしたいと思っています。調べていただけませんか。

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 ア　3 エ　4 ア　5 ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　つなぎことば

一
(1) ① ア　② イ
(2) ① ウ　② エ　③ イ　④ ア

二
① ウ　② ア　③ イ　④ エ

三
① ウ　② ア　③ イ　④ エ

四
① イ　② エ　③ ア

五
①（例）待ち合わせの時間がすぎた。しかし、まだ友達は来ない。
②（例）服そうは整えた。それに、かみもきれいにとかした。
③（例）今日は暑い。だから、アイスクリームを食べよう。

六
(1) ②
(2) ①
(3) ア
(4) ① ア　② ア　③ イ　④ ウ

〈確認テストの解答〉
１ ウ　２ ア　３ イ　４ エ　５ ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　くらしの中の和と洋

一題目

(1) 衣…イ・ウ
食…エ・カ
住…ア・オ

(2) 和…伝統的(でんとうてき)な日本の文化にもとづくもの
洋…（主として）欧米(おうべい)の文化から取り入れたもの

(3) ウ

(4) ゆかの仕上げ方・そこに置かれる家具

二題目

(1) (例)目的に合わせて使いやすくつくられていること。

(2) ①目的…食事をする　家具…テーブルやいす
②目的…勉強をする　家具…勉強づくえ
③目的…ねる　家具…ベッド
（順不同(じゅんふどう)）

(3) (例)一つの部屋をいろいろな目的に使うことができること。

(4) しかし、和室

(5) 洋室…イ・エ
和室…ア・ウ

〈確認テストの解答〉

1 ウ　2 ア　3 ウ　4 エ　5 イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　同音異義語、熟語の組み立て

同じ読み方の漢字

一
(1) ①機械 ②器械
(2) ①味方 ②見方

二
(1) ①話す ②放す
(2) ①切る ②着る

三
(1) ①追 ②負
(2) ①機械 ②機会
(3) ①自身 ②自信

四
(1) ①直 ②治
(2) ①関心 ②感心
(3) ①以外 ②意外

熟語の組み立て

一
(1) エ
(2) イ
(3) ア
(4) ウ

二
(1) ①暗 ②強
(2) ①路 ②産

三
(1) 登山
(2) 消火

四
(1) 左右　出欠
(2) 絵画　寒冷
(3) 曲線　海底
(4) 読書　着陸

五
(1) ①地 ②勝
(2) ①林 ②発

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

六
(1) 帰国
(2) 開店

七
(1) 遠近　軽重
(2) 平等　連続
(3) 親友　鉄板
(4) 発熱　着席

八
(1) イ
(2) エ
(3) ア
(4) ウ
(5) オ

〈確認テストの解答〉
1 ア
2 イ
3 エ
4 エ
5 ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　世界一美しいぼくの村①

一題目

(1) めったにふらない・美しい自然（しぜん）
(2) イ
(3)（例）兵隊（へいたい）になって、戦い（たたか）に行ったから。
(4) あまいす ～ くらんぼ

二題目

(1) ウ
(2) ア
(3) ①（例）戦争で足をなくしてしまったから。
②（例）昔、パグマンの近くで果物（くだもの）を作っていて、なつかしかったから。
(4) イ

〈確認テストの解答〉

1 エ　2 エ　3 エ　4 ア　5 エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　世界一美しいぼくの村②

一題目

(1) (例)(ハルーン兄さんならだいじょうぶ、)きっと春には元気に帰ってくるということ。

(2) ア・ウ・オ

(3) ①イ

②(例)市場で、子羊を一頭買ったこと。

(4) ウ

二題目

(1) ミラドー(が)パグマンに帰る(こと。)

(2) 自分のマフラー(を)(ミラドーの首に)まいて(くれた。)

(3) ウ

(4) (例)心がうきうきした。

(5) ミラドーは、雨がふり、風がふいても、歩き続(つづ)けました。

(6) ウ

(7) 「牛の世話をしている女の子」…しぼりたてのミルク

「羊かいの少年」…自分のつえ

(8) イ

(9) (例)お父さんの笛と同じにおいがする(もの)

(10) イ

〈確認テストの解答〉

１　ア　２　イ　３　イ　４　エ　５　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　短歌、俳句(はいく)

一題目

(1)昔の有名な短歌を百首集めたもの
(2)三十一（音）
(3)いつごろ…千年以上前
どこで…日本
(4)季節や自然、人生、人を思う心など
(5)あらしが～うだなあ

二題目

(1)A東の／野にかぎろいの／立つ見えて／かえり見すれば／月かたぶきぬ
B秋来(き)ぬと／目にはさやかに／見えねども／風の音にぞ／おどろかれぬる
(2)イ
(3)はっきりと
(4)風の音
(5)A

俳句

一

(1)A五月雨(さみだれ)
B夏氷(なつごおり)
Cやせがえる
D赤とんぼ

二

(1)A朝顔
Dはたはた
Fこがらし
Gはえ
(2)ウ
(3)Aしずかさ
Bせみ
(4)ウ
(5)H秋
I春
J冬
(6)（例）いちょうの葉
(7)イ
(8)ア

三

(1)エ
(2)①しか
②秋
(3)エ

〈確認テストの解答〉

1　ア　2　ウ　3　エ　4　イ　5　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講　ゆめのロボットを作る

一題目

(1)考え方・二つ
(2)人造人間
(3)人の役に立つ機械
(4)人間の動きを手助けする(ロボット。)
(5)(例)人間が身に着けて使うロボット。
(6)(例)ふだんの生活に役立つということをとても大切に考えているから。

二題目

(1)人工筋肉の力を借りて、重いものを持ち上げる働きをするロボット
(2)自分の力
(3)㋐ゴムのチ　(別解)人工筋肉
　㋑動かす力～いるので
(4)工場や倉～を助ける
　病気やけ～る手助け(できます)(復させる)
　お年寄り～に着ける
　〈順不同〉
(5)(例)動けない人が、自分で動けるようになるための手助け。
(6)(例)ねたきりの人が少なくなる。
　(例)介護する側の人たちのふたんもさらに小さくなる。
　〈順不同〉

〈確認テストの解答〉

1　ア　2　イ　3　ウ　4　エ　5　ア

第二十二講　木竜（もくりゅう）うるし①

一題目

(1) あ ト書（とが）き
　い せりふ
(2) うるし
(3) (例)あったのか
(4) 大昔から〜たまった
(5) イ
(6) ウ
(7) イ
(8) (例)うるしをひとりじめしたかったから。
(9) (例)藤六が、決してうるしを取りにこないようにするための方法。
(10) イ

〈確認テストの解答〉
1 ウ　2 ア　3 エ　4 ア　5 イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講　木竜うるし②

一題目

(1) だれが…藤六
どこから…ふち
(2) ウ
(3) だれが…権八(ごんぱち)
何を…うるし
(4) (例)うるしを取ること。
(5) あんまりの大金もうけだで武者(むしゃ)ぶるいが出たか。
(6) 藤六…(例)(昨日は何もいなかったのに、今日は)竜(大じゃ)がいること。
権八…(例)自分で作った木の竜のはずなのに、大きな口を開けて自分をにらんだこと。
(7) ウ

二題目

(1) なんの、あら水の加減(かげん)でゆらゆら見えるだ。
(2) やっぱり悪いことをしとると、気のせいでいろんなふうに見えるもんだ。
(3) ウ
(4) (例)村中みんなで取りに来るか。
(5) ㋐(例)おらと二人で山分けせんか。
㋑イ
(6) 気だてのええやつ(だなあ。)
(7) ウ
(8) (例)藤六の気だてのよさにふれて、自分のよく深さを反省したから。

〈確認テストの解答〉

1　エ　2　ウ　3　ア　4　ア　5　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講　文の組み立て（主語、述語、修飾語）

主語、述語

一
(1) ぼくは
(2) 雪が

二
(1) わらう
(2) 飲む

三
(1) 主語…赤ちゃんが
　述語…泣く
(2) 主語…中山さんが
　述語…配った
(3) 主語…チューリップが
　述語…美しい

四
(1) 主語…自転車が
　述語…たおれる
(2) 主語…（ブタの）かんばんが
　述語…ぴったりだ
(3) 主語…店員さんが
　述語…親切だ

五
(1) 森田さんは
(2) わたしは
(3) ×

修飾語

一
① おいしそうに　木の実を
② きのう　ていねいに　手紙を
③ おこった　だまって　ぼくを

二
① ア大つぶの
　イたたきつけるように
② ア白い
　イうれしそうに　あぜ道を

三
(1) ①ぐっすりと
　②ねむった
(2) ①きびしい
　②父（が）

四
① 大きな　堂々と
② 三角形の　紙を　そっと

〈それぞれ順不同〉

五
① 開店した
② うれしそうに
　にっこり
③ あわてて
　木の実を

〈それぞれ順不同〉

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈確認テストの解答〉

1　エ

2　ア

3　ア

4　イ

5　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。